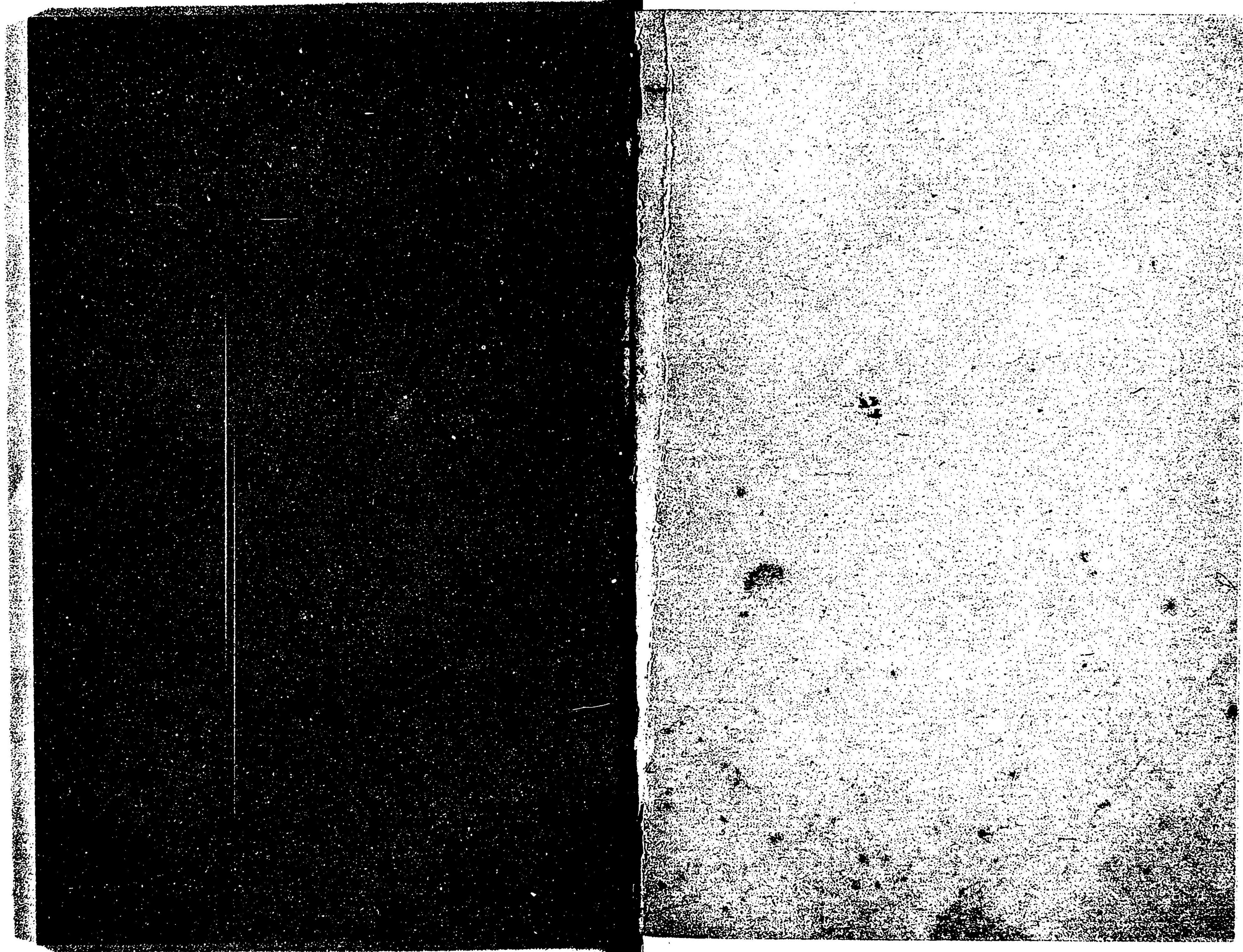


22, 5, 11

297
30

古兵教育之要領

全



297-30

軍需商會編纂部著

古兵教育之要領

發行所

軍需商會出版部

全
明治
43. 5. 31
丙寅

緒言

目下二年兵役制度ノ採用ニ當リ古兵教育ノ樞要ナル時機ニ際シ之カ教育ニ資スルモノ少ナキハ甚タ遺憾トスル所ナリ

本書ハ著者カ隊附間ニ於テ之レカ教育ニ從事シタル經驗ニ鑑ミ尙ホ先輩諸賢ノ著書ヲ參考トシテ古兵教育ニ關スル意見ヲ秩序的ニ説述シタルモノトス若シ本書ニシテ多少之レカ目的ニ合スルヲ得ハ著者ノ誠ニ幸ヒトスル處ナリ

著

者

識

古兵教育之要領

目次

| | |
|--------------|----|
| 第一章 總論 | 一 |
| 第二章 各官ノ責任 | 四 |
| 第一節 聯、大隊長ノ責任 | 四 |
| 第二節 中隊長ノ責任 | 七 |
| 第三節 中隊附將校ノ責任 | 一一 |
| 第四節 下士ノ責任 | 一四 |
| 第五節 上等兵ノ責任 | 一六 |

目

次

一

第三章 教育ノ準備……………一七

第四章 教育ノ要義……………一九

第一節 要旨……………一九

第二節 教育者ノ性能……………二三

第三節 教育ノ方法……………二七

第五章 各課目ノ教育要領……………二八

第一節 要旨……………二八

第二節 術科ノ教育……………三二

第一 操典ノ教練ニ屬スルモノ……………三二

第二 野外要務ニ屬スルモノ……………六八

第三 射擊教育ニ屬スルモノ……………七〇

第四 野戰築城ニ屬スルモノ……………七九

第五 體操ニ屬スルモノ……………七九

第六 銃劍術ニ屬スルモノ……………八二

第七 夜間動作ニ屬スルモノ……………八五

第八 敬禮ニ屬スルモノ……………八七

第九 衛兵ニ屬スルモノ……………九〇

第三節 學科ノ教育……………九〇

第六章 教育ニ關スル諸注意……………九四

第七章 結論

目次

四

一〇三

古兵教育之要領目次終

古兵教育之要領



第二、今、補給、兵、新、並、從、方、資、驗、ニ、鑑、ミ、テ、典、範、令、ハ、改、正、セ、ラ、レ、歩、兵、ニ、於、テ、一、年、兵、役、ノ、結、束、ヲ、採、用、セ、ラ、ル、ノ、事、ト、ナ、レ、リ、之、カ、爲、メ、古、兵、ノ、教、育、ハ、如、何、ニ、セ、ハ、適、當、ナ、ク、時、勢、ノ、進、歩、ニ、伴、ヒ、人、智、ハ、増、加、シ、教、育、ノ、課、目、ハ、増、々、繁、雜、ト、ナ、リ、テ、而、シ、モ、其、ノ、時、間、ハ、減、少、シ、返、リ、テ、勤、務、カ、多、端、加、フ、ル、ニ、人、事、カ、復、雜、ト、爲、ツ、タ、今、日、テ、ハ、尙、ホ、舊、式、ノ、方、法、ニ、因、ツ、テ、之、レ、ニ、甘、ン、ス、ル、事、ハ、出、來、ナ、イ、ノ、テ、ア、ル

第二、抑モ兵卒ノ主要ナル任務ト云フハ軍人精神ヲ體シ兵器ノ使用ニ熟シ上官ノ指揮ニ從ヒテ一致正格ニ行動スルコトヲ軍隊教育ノ目的

ト即チ兵卒ヲシテ此ノ有形無形ノ技能性格ヲ修得シテ其ノ任務ヲ全クセシムルニアルノテアル而シテ兵卒ハ凡テ善良ナル教育ニ依テ其性質ヲ鞏固ニシテ獨斷テ己ニ克ツコトヲ能クシ且自然ノ習慣ニ依テ體軀ノ勞働ニ堪エ單簡ナル戰闘ノ方法ニ習熟スルトキニハ悲惨ナ戰闘ノ感情ニ撓マヌシテ眞ノ兵卒ヲ以テ任スルコトヲ得ルノテアル

第三、軍人ハ强健ナ體力ヲ得テ初メテ能ク其ノ任務ヲ全フスル事カ出來ルノテアル故ニ教育ハ其ノ技能ト性格ヲ修養スルト同時ニ體力ノ發達ヲ圖リ他ノ教育ト相俟テ完全ナ戰闘ノ起動力ヲ養成セテハナラヌ而シテ又軍隊ノ教練ハ單ニ兵卒ヲシテ數多ノ技藝ヲ行ハシムルノミカ目的テハナイ此ノ教練ト共ニ人間ニ必要ナ教育ヲ與フヘキモノテ即チ

一、兵卒ノ精神ヲ發達サスルコト
二、兵卒ノ義務心ヲ喚起スルコト
三、且之レヲ鞏固ニシテ智慮ヲ増進サスルコト
四、身體ヲ壯健ニシテ且之ヲ鍛練サスルコト

等テ斯クシテ軍隊ニ要求スル萬事ヲ爲シ得ル様ニ其精神及體力ヲ發達サスルコトカ必要ナル然ラサレハ各兵卒ヲシテ此ノ貴重ナル二年間ヲ徒費サスルノミテナク却テ國家ノ利益ヲ害スルニ至ルノテアル

第四、要スルニ古兵ノ教育ハ初年兵トシテ教育セラレタ事項ヲ漸次復習シ擴張シテ其ノ得タル技倆ヲ益研精シテ熟達セシムルノテアル而シテ彼等ハ常ニ諸勤務ニ服スルヲ以テ新兵ノ教育時代ニ於ケルカ如

クニ全般ニ亘リ同時ニ同一ノ動作ヲ普及セシムルコトハ甚タ困難ヲ
アル故ニ之カ教育ノ任ニ當ルモノハ宜敷ク先ツ自ラ教育ノ方法ト手
段並ニ其ノ利害得失等ヲ研究シテ充分ナル計畫ヲ立テ、之レカ教育
ニ従事セテハナラヌ

第二章 各官ノ責任

第一節 聯、大隊長ノ責任

第一、聯隊長ハ聯隊ノ教育ヲ統轄シテ統一セル教育ノ方針ニ基キテ教
育ノ齊一ト其ノ進歩發達ヲ圖ルノミナラス聯隊ヲ練成スル責任ヲ有
スルノテアル

第二、大隊長ハ部下中隊教育ノ進歩ヲ計リ其ノ發達ヲ促シテ大隊ヲ練

成スルノ責任ヲ有スルモノテアル

第三、聯隊長、大隊長ハ常ニ部下軍隊ノ教育状態ヲ觀察シ操典ノ要求
セル如クニ能ク部下教練ノ實施法ヲ監視シテ其ノ缺點ヲ發見セハ直
ニ之ヲ矯正シ又或ル部隊ニ良好ノモノアレハ之レヲ他ノ部隊ノ教育
ニモ應用サセテ其ノ教育法ノ進歩發達ヲ計ラテハナラヌ

第四、聯隊長若クハ大隊長ノ教育上ニ就テ中隊長ニ命令ヲ以テ干涉ス
ルノハ

- 一、中隊長ノ任意且放恣ナルトキ
- 二、爲スノ不可ナルヲ知リツ、尙ホ之レヲ行ハントスルトキ
- 三、操典上ノ規則ヲ守ラサルカ如キ過失ノアリタルトキ
- 四、軍紀ヲ害スル處ノ方法ヲ以テ其ノ勤務ヲ爲ストキ

等ニ限ルノテアル

第五、抑モ教育ハ中隊長ノ責任ナレトモ全ク之レヲシテ其ノ自由ニノミ一任スル事ハ出来ナイノテアル勿論教育ハ典令教範等ニ因テ實施スヘキモノナレトモ軍隊内ニ在ツテハ其ノ時機ニ適合スル教育上ノ方針カアツテ軍隊内務書ニ規定セル如ク聯隊長ハ聯隊ヲ統率シテ法規ノ定ムル所ニ從ヒテ諸般ノ職務ヲ執行シ其責ニ任スルノミナラス歩兵操典ニモ聯隊ハ教育ノ統一、將校團ノ團結、編制及歴史ニ基キ獨立シテ一方面ノ戰鬥任務ヲ達スルノニ特ニ適切ナルコトヲ稱シテ居ルノテアル故ニ教育者タルモノハ各自隨意ニ教育ヲ實施スルカ如キコトナク能ク其ノ隊長ノ方針ニ基イテ其ノ意圖ニ合スル如ク實施スルノハ勿論各團隊長モ之レヲ實行セシムルノ責任ヲ有スルノテアル

六

第二節 中隊長ノ責任

第六、軍隊内務書ニ曰ク

- 一、中隊長ハ中隊ヲ統率シ軍紀風紀ヲ維持シ部下ノ教育訓練ノ責任シ下士ノ補充ヲ圖リ上官ノ旨ヲ承ケ經理、衛生、兵器、馬、内務服裝ニ關スル實務ヲ處理スト又曰ク
- 二、中隊長ハ中隊附士官ノ輔翼ニ依リ部下ヲシテ一致團結恰モ一家ノ如クナラシメ徳性ヲ陶冶シ學術技能ヲ練磨シ諸法則ヲ嚴守シ演習、勤務ニ勉勵シ困苦缺乏ニ堪エシメ堅忍不撓勇往斃而後止ムノ氣性ヲ養フコトヲ勉ムヘシト

歩兵操典ニ曰ク

中隊ハ戦闘ノ單位ニシテ中隊長ヲ核心トセル士氣結合ノ基礎ナリ中隊教練ハ即チ中隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ中隊長ノ號令又ハ命令ニ從ヒ舉止恰モ一體ノ如ク整正確實ニ規定ノ運動ヲ實行シ得セシムルヲ主眼トス此趣旨ニ基キ能ク訓練セラレタル中隊ハ豫メ習得セサル事ト雖中隊長ノ意圖ニ應シ制式ノ適當ナル應用ニ依リ目的ヲ達シ得ルモノナリト

實ニ中隊長ノ責任ハ大ナルモノテアル宜敷中隊長ハ其ノ自ラ信スル所ヲ貫徹シテ中隊ノ主義ヲ立テ能ク教育ノ方法ニ關セル卓識ヲ有シ其ノ部下ヲ統御スル技量ヲ備エネハナラヌ

第七、中隊長ハ中隊附將校ニ次ノ事ニ就テ能ク注意ヲセネハナラヌ

- 一、精神身體ヲ興奮シテ常ニ勤務ニ勉勵スルコト
- 二、命令ヲ下スニ簡明確切ナルコト
- 三、部下ヲシテ奮勵勤務セシムルコト
- 四、兵卒各自ノ姓名ヲ知ルノミナラス更ニ
 1. 私事ノ關係
 2. 入隊以前ノ行狀
 3. 身體精神ノ天稟等ヲ審ニスルコト
- 五、下士卒ヲシテ悅ンテ我要求ヲ實行シ且命令ニ服從セシムル爲メ躬行率先自ラ其身ヲ正クシ嚴正ニ義務ヲ盡シ命令ニ服從シテ模範ヲ示スコト

第八、中隊長ハ完全ナ軍隊的ノ家庭ヲ作ルノ責ヲ有スルノテアル而シテ之レカ爲メ勉メネハナラヌ事柄ニ就テハ軍隊内務書ニ明示シアレトモ教育ノ作用ハ甚タ複雑テ臨機應變ノ措置ヲ要スルコトカ多イノテアル故ニ自ラ其ノ責務ノ重大ナコトヲ覺リ

一、如何ニセハ軍紀ヲ振張スルコトカ出來ルカ

二、如何ニセハ軍人精神ヲ涵養スルコトカ出來ルカ

三、如何ニセハ部下ヲシテ愉快ニ且熱心ニ誠實ニ働カサスルコトカ出來ルカ

四、如何ニセハ兵卒ヲシテ自ラ注意ヲシテ其ノ行ヲ正シ軍隊生活ヲ愛重サスルコトカ出來ルカ

五、如何ニセハ從來ノ弊風ヲ矯正シテ新ニ善キ習慣ヲ養フコトカ出

來ルカ

六、如何ニセハ中隊ノ一致團結ヲ圖ルコトカ出來ルカ

等ニ就テ計畫ヲ立テ研究ヲ積ンテ教育ノ完全ヲ圖ラネハナラヌ而シテ之カ爲メ最モ必要テ且有効ナ方法ハ實踐躬行自己ノ性格ヲ以テ兵卒ヲ感化スルノカ緊要テアル

第二節 中隊附將校ノ責任

第九、將校ハ軍隊ノ楨幹テ中隊教育ニ於ケル直接ノ最高教官テアル其ノ職責ノ重大ナルコトハ軍隊教育ノ重大ナルノト全然同一テアル
軍隊内務書ニ曰ク

中隊附中少尉ハ中隊長ノ分身者トシテ中隊長ヲ輔翼シ其命令、意圖

ヲ隊中ニ徹底セシムルヲ任トス之カ爲ニハ自ラ中隊ノ儀表ト爲リ先ツ特務曹長以下中隊ノ幹部ヲシテ一致和親忠實ニ勤務セシメ又下士ノ職權ヲ保護シ兵卒ニ對シテ能ク其命令ノ行ハルルコトニ注意シ且兵卒ノ性質、技能、經歷ヲ熟知シ斷ニス其言行ヲ監視シ中隊長ノ有形無形ノ教育ヲ幫助シ其目的ヲ達セシムルコトニ全力ヲ盡スヘシト右ノ如ク將校ノ任務ハ重大テ且繁雜テアル故ニ將校ハ日常ノ勤務ノ外ニ於テ各自其ノ智識材能ヲ進ムルコトヲ忘レテハナラヌ

第十、將校ハ常ニ其部下ノ教官及指揮官テアル故ニ之ニ要スル所ノ智識才能ヲ保有スルノ義務ヲ有スルノテアル之カ爲メ當ニ其ノ現在ノ智識、才能ヲ保有スルノミテナク更ニ自ラ進ンテ勉學修業ニ勉メネハナラヌ

第十一、古兵ノ教育ハ其ノ新兵教育ニ於ケルト輕重ハナイノテアルノミナラス其ノ實施ニ當リテハ新兵ト異リ前一年間ノ教育ニ於テ各種ノ動作中ニ各自ノ弊習ヲ有スル者アルハ數ノ免レサル所テアル加フルニ勤務等ノ爲メ其ノ出場人員ノ不等ナル時期ニ際シ之レヲ矯正シテ操典ノ要求ニ合スル如ク教育ヲ施スノハ又一朝一夕ノコトテハナイサレハ其ノ教育ノ困難ナルコトハ新兵教育以上ト謂フモ又過言テハナイノテアル

第十二、中隊附將校中新兵掛タル教官ヲ除ケハ凡テ古兵掛ノ教官テアル故ニ其ノ階級ノ如何ヲ問ハス又新古參ノ故ヲ論セス各自其ノ欲スル處ニ從ヒ之カ教育ニ從事スルコトヲ避ケテ一致協力以テ中隊長ノ意圖ニ合スル如ク教育ヲ實施セサレハ其進歩ハ望ミ得ナイコトテア

第四節 下士ノ責任

第十三、下士ハ將校ノ善良ナル補翼者ヲナケレハナラヌ彼等ハ助教並ニ内務班長トシテ家庭ニ於ケル母ノ位置ニアルモノテ助教トシテハ直接ニ兵卒ヲ指導シ教授シ又學科ノ一部ヲ擔任シテ教授シ内務班長トシテハ直接ニ兵卒ト起居ヲ共ニセスト雖日夜之レニ接シテ兵舎ニアルモノテアル故ニ其ノ情況ヲ知ルノニ便利ナルハ將校ニ比シテ大ナルモノテアルサレハ常ニ將校ノ意圖ヲ奉シテ之ヲ兵卒ニ要求シテ之ヲ監視シ之レカ實行ヲ期セネハナラヌ

第十四、下士ノ起居ノ動作ハ全々兵卒ノ模範トナラネハナラヌ而シテ常ニ注意ヲ周到ニシテ能ク兵卒ノ内情ヲ知り過ヲ未然ニ防キ之カ進歩ヲ助言セネハナラヌ又其ノ言語ヲ慎ミ曖昧ノ言ヲ發シテハナラヌ宜敷其職務ニ忠實テ分擔セラレタ兵卒ノ齊一進歩ニ就テハ教官ニ對シテ其ノ責ニ任セネハナラヌ然ルニ從來ヨリノ弊習ヲ見ルノニ彼等ハ教育ノ實施ニ當リテハ自ラ責任ヲ有セストシテ中隊長並ニ中隊附將校ノ計畫シタ所ヲ深ク研究スルコトモナク日々ノ教育法ニ就テモ唯ニ其ノ命セラル、儘ニ機械的ニ動作ヲナスカ如キ者アルハ勿論其ノ上級者タル者ノ統御ノ不可ナルコトモ一ツノ原因ナレトモ又自ラノ研究心ニ乏シキノ依テ然ラシムルコトハ明カテアル深ク自ラ戒メネハナラヌ

第五節 上等兵ノ責任

第十五、上等兵ハ兵卒ノ教育上一ツノ重要位置ニアルモノテ演習テハ助手トシテ乳母ノ如ク家庭テハ長兄トシテ之カ指導ノ任ニ當リ常ニ彼等ト起居、演習ヲ共ニスル故其ノ感化スルコトノ大ナルハ想像ノ以外テアル殊ニ軍紀風紀ノ基礎テアル所ノ諸定則ノ履行ノ如キハ其大部ヲ上等兵ノ力ニ待タネハナラヌ上等兵タル者ハ宜シク兵卒一般ノ學術ニ長シ上等兵トシテ充分各動作勤務ニ精熟シテ躬行率先シテ兵卒ニ好模範ヲ示シテ兵卒ノ上ニ立チテ下士ノ勤務ヲ幫助シ得ル如ク其ノ能力ヲ發揮セネハナラヌ

第十六、從來上等兵ニシテ古兵ニ對シテ其ノ年次等情實ノ關係ヨリシテ充分其ノ職責ヲ盡スコトノ出來ナイ者ノ有ルノハ甚タ遺憾トスル

處テアル之レ等ハ上等兵タルノ教育カ不充分テ其ノ資格ニ於テ缺クルトコロアルニ依ルモノナレトモ公事ト私事トハ別テアル故ニ私ノ事ニ就テハ充分兵卒ノ便利ヲ計リ之レヲ保護スルハ望ム處ナレトモ一度ヒ演習並ニ勤務上ノ事ニ及ヒテハ必ス如何ナル事情ニ遭遇スルトモ着々其ノ事項ヲ決行シテ彼等ノ爲メニ其ノ職責ヲ犯サル、カ如キ動作カ有リテハナラヌ

第十七、要スル善良ナ上等兵ヲ有スル中隊ハ常ニ他ニ比シテ優秀ナ成績ヲ得ルモノテアル上等兵タルモノハ宜シク自己ノ責任ノ大ナルコトヲ自確シ自ラ研究シテ中隊ノ爲メニ盡スコトヲ心掛ケネハナラヌ

第三章 教育ノ準備

第一、中隊長ハ

十八

- 一、從來ノ經驗ト前年以來ノ講評等ヲ鑑ミ聯隊ノ教育方針ヲ參酌シテ其ノ方寸ニ依リテ綿密ナル教育計畫ヲ立テテ其ノ意圖ヲ中隊附將校以下幹部ニ普及セネハナラヌ
- 二、中隊ノ成績ヲ良好ナラシメントセハ必スヤ善良ナル教育者ヲ得ネハナラヌ故ニ中隊附將校ト共ニ此レ等ノ下級幹部タル下士、上等兵ノ教育ニ特別ノ注意ヲ拂ヒ彼等ヲ適所ニ使用スル如ク準備セネハナラヌ
- 三、其ノ年度ニ於テ必要ナル教育用ノ武器材料等ヲ準備シ銃ノ試験射撃ヲ終ラネハナラヌ

第二、中隊附將校ハ中隊長トハ同一體テ意志カ互ニ疎通シテ居ラネハ

ナラヌ故ニ中隊長ノ立案セル總計畫ヲ攻究シ自ラ使用シ得ヘキ總時間ヲ考ヘ數年來ノ講評等ヲ閱讀シテ其ノ教育ノ方法ヲ研究シ綿密ナ腹案ヲ立テ其ノ教育ノ實施ニ當リ某課目ニ非常ニ多クノ時間ヲ費シ之カ爲メ他ノ課目ノ時間ヲ缺乏サスルカ如キコト無キ様準備セネハナラヌ

第四章 教育ノ要義

第一節 要旨

第一、軍隊教育ノ目的ハ完全ナル軍人ヲ養成シ兼ネテ完全ナル國民ヲ造ルノテアル而シテ教育ハ指導ト薰陶トヲ兼ネテ自己ハ勿論下級ノ

幹部ヲシテ滿腔ノ熱心ト懇切トヲ以テ之ヲ實施サセ又被教育者ヲシテ熱心其ノ教訓ヲ迎エシムルカ如クニ導カネハナラヌ而シテ斯ノ如クニ之レヲ實行サスルノハ實ニ容易ノコトテハナイノテアル故ニ教育ニ従事スル者ハ宜シク自ラ研究シテ適當ナ方法ト手段トヲ發見セネハナラヌ

第二、抑モ兵卒ハ入營ノ當初己ニ丁年ニ達セル者テ且國家及社會ノ教育ヲ受ケタルモノ故其ノ結果ノ如何ニ依ツテハ軍隊教育ノ難易ヲ生シテ來ルノハ明カナコトテアル然シ軍隊ノ生活ハ全然他ノモノト其ノ趣ヲ異ニシテ居ルモノ故始メテ入營シタ新兵ハ其ノ見ル所聞ク所凡テ從來ノ其レト異ナル許リヲナク其ノ周圍ノ事皆其ノ習慣ト異リ宛モ赤子ノ如キモノテアル故ニ其ノ心身共ニ故參者ノ助ケヲ受ケテ

僅ニ服務スルノ有様故彼等ハ其ノ鋭敏ナ感覺ト善良ナ記憶トヲ以テ將來必要トスル服務ノ材料ヲ得ントナシ其ノ上意志、感情モ亦比較的動キ易キヲ以テ此ノ時ニ彼等ニ與フル教育ハ其ノ心裡ニ感染シテ脫離スルコトハナイノテアル故ニ之カ教育ノ効果ノ顯著ナルト共ニ其ノ重要ナコトハ多言ヲ要サナイノテアル而シテ彼等ハ入營後時日ノ經過スルニ從ヒ殊ニ古兵トナリ其ノ生活ニ慣ル、ト共ニ心ノ自動力ヲ増シ他ノ勢力ニ由リテ動キ易キ性質ヲ減シテ自ラ信スル所ヲ確持シ自意ニ由ツテ其ノ行爲ヲ規定スル様ニ傾キ易ク斯クシテ漸次ニ精神上ニ及ホス教育ノ勢力ノ衰ヘテ行クモノテ古兵教育ノ困難ナ所以テアル故ニ教育者タルモノハ宜シク次ニ述フル事項ニ注意ヲシテ教育ノ効果ヲ成ルヘク多大ナラシムルコトニ勉メネハナラヌ

一、常ニ能ク兵卒ノ性質ヲ考エテ之レニ適應スル如クニ各個ニ教育ヲ行フコト

二、一般社會ノ有様及彼等ニ常ニ接スル戰友ノ性質狀態等ヲ知得シテ兵卒ニ及ホス處ノ邪惡ノ勢力ヲ制止シテ其ノ善良ノ勢力ヲ利用スルコト

三、能ク自己ノ性質ヲ知ツテ教育ニ從事スルコト

第三、要スルニ軍隊教育ノ時機ハ暫ニ二年ノ短日月テ二年兵役制度ノ採用セラレテ典範令ハ改正セラレタレトモ其ノ教育ノ程度ニ至ツテハ三年兵役ノ其レニ比シ更ニ高キヲ要求セリ即チ教育者タルモノハ從來ヨリモ短日月ヲ以テ一層精練ナ軍隊ヲ養成セネハナラヌ之レニ依テ見レハ當局者ハ宜シク熱心奮勵シテ之レカ教育ニ從事シ其ノ効

果ヲ充分戰場竝ニ社會ニ發揮セネハナラヌ

第二節 教育ノ性能

第四、教育者ノ身體ハ強健テナケレハナラヌ何トナレハ教官タル者ノ一日ノ缺勤ハ兵卒ニ及ホス精神的ノ影響以外ニ尙ホ幾十ノ兵卒ノ進歩ヲ妨クルノミナラス虛弱ナモノハ勇氣ナク忍耐ニ乏シク意氣沈ミテ兵卒ニ爽快ノ情、熱心勤勉ノ風ヲ保持スルコトカ困難トナルカラテアル

第五、教育者タルモノ、身體ノ發育ハ完全テナケレハナラヌ何トナレハ彼等ハ體操、劍術其他各種ノ演習ニ於テ率先兵卒ノ模範トナラチハナラヌカラテアル

第六、教育者ハ内心ヨリ兵卒ヲ愛シテ自ラ好シテ其ノ教育ニ從事セテハナラヌ故ニ冷性テ兵卒ヲ好マサル者ハ全ク教育者ニ適當シナイノテアル然シ其ノ兵卒ヲ愛スルノハ眞ニ彼等ヲ愛スルノテ姑息手段ノ愛テハナイノテアル夫ノ寛嚴其ノ度ヲ失シテ常ニ兵卒ノ意ヲ迎エ嚴ナルヘキ時ニ於テモ斷乎タル處置ヲ決行スルコトノ出來ナイ者ノ如キハ唯ニ教育者ニ適スル者ト云フコトノ出來ナイノミナラス却テ軍隊ノ害ヲ爲スモノテアル。

第七、教育者タルモノハ德望カナケレハナラヌ何トナレハ教育者ノ一舉一動ハ悉ク兵卒ニ影響スルモノテ教官タルモノハ常ニ自己ノ品性ヲ鍛鍊シ公私ノ生活ニ於テ善良ノ模範テアルコトヲ怠レテハナラヌ即チ教育者ハ已レ自ラ其ノ兵卒ニ要求スル所ノモノト成リ兵卒ヲシ

テ爲サシメント欲スル所ノモノヲ爲シ兵卒ノ過失カアツタナレハ先ツ已レテ改メタ後之ヲ改メルノカ必要テアル要スルニ善良ナ教育者ハ口ヲ以テ教エス其ノ行ヒヲ以テ教フルモノテアルカラテアル。

第八、教育者ハ必スシモ全知全能テアル必要ハナイナレトモ其ノ職務ヲ實行スル上ニ就テ必要ナ知識ハ必ス之レヲ備エテ居ラネハナラヌ夫ノ練兵場等テ操典ヲ繙クカ如キコトハ教育者タルモノ、決シテ爲スヘキコトテハナイノテアル。

第九、教育者ハ教育的ノ機巧カナケレハナラヌ何ントナレハ其レハ凡テ實行上ニ表ハレル機轉テ知識ノ用法テアル換言スレハ即チ教育法ノ巧拙ノ岐ル、所テアルカラテアル。

第十、教育者タルモノハ眞率テ熱心テナケレハナラヌ何ントナレハ凡

テ教育ノ事業ハ一時ニ其ノ功ヲ顯ハスコトハ困難ナル故ニ浮薄ナ
 教育者ハ外面的ノ名譽ニ狩ラレテ教育ノ順序ヲ誤リ不結果ヲ來タス
 ニ至ルモノテアル然ルニ眞ノ教育者ハ其ノ自ラ教育セシ兵卒カ他日
 ノ成功ヲ見テ眞ノ愉快トスルモノ故遂ニ其ノ目的ヲ達シ得ルカラテ
 アル

第十一、教育者ハ一般ニ要スル學理ト經驗ヲ具備セネハナラヌ何ント
 ナレハ凡テ教育ハ理論並ニ經驗ヲ基トシテ實行スルモノテ即チ教育
 ハ一ノ術テアル故ニ單ニ理論ノミヲ知ルノミテハ之ニ熟達スルコト
 ハ出來ヌ必スヤ實地ノ練習ヲ必要トスルコトハ明カテアル然レトモ
 此ノ實地練習ノ指導ヲシテ之レヲ正當ノ方向ニ進マセルノハ理論ニ
 待タサレハナラヌ故ニ此ノ兩者ヲ必要トスル所以テアル

第三節 教育ノ方法

第十二、教育ハ指教ト薰陶ヲ兼テ兵卒ヲシテ學術ノ習得ト心性ノ修養
 ヲ全クシ又課業ハ其ノ順序難易ヲ考慮シ適當ニ之ヲ定メ全幅ノ心カ
 ラ以テ教訓ヲ迎エ進ンテ業務ニ從ハシムルヲ要スト今教育方法ノ大
 要ヲ述フレハ次ノ如クテアル

- 一、誘掖的ノ教育
- 二、啓發的ノ教育
- 三、注入的ノ教育

第十三、誘掖的ノ教育ハ模範教育ヲ總テノ教育課目ニ應用スルコトカ
 出來一番價值ノ在ル方法ヲ所謂口ヲ以テセス行ヒヲ以テ教育ヲスル

方法ヲ云フノテアル

第十四、啓發的の教育ハ兵卒ノ想像力、理解力ヲ發達シ進取勇敢ノ氣象ヲ養成スルニ最モ適當ナモノテ殊ニ戰鬥動作ノ如キ兵卒ノ獨斷專決ノ力ヲ發達サスルニハ最モ有益ナ方法テ即チ凡テノ事ヲ兵卒ノ腦裡ニ訴エテ自ラ是非ヲ識別シ原則ヲ理解セシムル教育ノ方法テアル

第十五、注入的の教育ハ頻繁反覆スル方法テ殊ニ教育者ニ熱心及忍耐ヲ要求スルモノテ普通以下ノ能力ヲ有スル兵卒トカ又ハ習熟ヲ要スル場合ニ應用セラル、教育ノ方法テアル

第五章 各課目ノ教育要領

第一節 要旨

第一、兵卒ニ教育スヘキ課目ヲ大別スレハ次ノニツテアル

- 一、術科ニ屬スルモノ
 - 二、學科ニ屬スルモノ
- 第二、術科ニ於テ教育スヘキ事項ヲ更ニ分類スレハ凡ツ次ノ如クテアル

- 一、操典ノ教練ニ屬スルモノ
- 二、野外要務ニ屬スルモノ
- 三、射撃教育ニ屬スルモノ
- 四、野戰築城ニ屬スルモノ
- 五、體操ニ屬スルモノ
- 六、銃劍術ニ屬スルモノ

- 七、夜間動作ニ屬スルモノ
- 八、敬禮ニ屬スルモノ
- 九、衛兵ニ屬スルモノ

第三、學科ニ於テ教育スヘキ事項ヲ更ニ分類スレハ凡ソ次ノ如クテアル

- 一、精神教育ニ屬スルモノ
- 二、各兵種ノ識別、性能ニ屬スルモノ
- 三、團隊ノ編成ニ屬スルモノ
- 四、上官々姓名ニ屬スルモノ
- 五、勳章ノ種類及起因ニ屬スルモノ
- 六、軍隊内務ニ屬スルモノ

- 七、陸軍禮式ニ屬スルモノ
- 八、刑法、懲罰令ニ屬スルモノ
- 九、武器、被服、裝具ノ手入及保存ニ屬スルモノ
- 十、野外要務ニ屬スルモノ
- 十一、操典ニ屬スルモノ
- 十二、射擊教範ニ屬スルモノ
- 十三、野戰築城ニ屬スルモノ
- 十四、體操、劍術ニ屬スルモノ
- 十五、赤十字條約ニ屬スルモノ
- 十六、聯隊歴史ニ屬スルモノ
- 十七、衛生ニ屬スルモノ

十八、衛兵ニ屬スルモノ

第二節 術科ノ教育

第一 操典ノ教練ニ屬スルモノ

其一 不動ノ姿勢

第四、歩兵操典第二十二ニ曰ク

不動ノ姿勢ハ軍人基本ノ姿勢ナリ故ニ常ニ嚴肅ニシテ端正ナラサルヘカラス軍人精神内ニ充ツルトキハ外容自ラ嚴正ナルモノトスト
不動ノ姿勢ハ所謂軍人ノ姿勢ヲ停止間ニ於ケル凡テ動作ノ基礎ヲ爲スモノテ一見犯スヘカラサル態度ヲ備エテ居ラチハナラヌ故ニ教育

者ハ特ニ此ノ點ニ注意シテ教育セチハナラヌ

第五、徒手ノ不動ノ姿勢テ一般ニ注意スヘキ諸點ヲ舉クレハ次ノ如ク
テアル

- 一、兩踵ハ一線上ニ揃エテ之レヲ著ケテ置カネハナラヌコト
- 二、兩足ハ約六十度ニ開イテ齊シク外ニ向ケテ置クコト
- 三、兩膝ハ凝ラスシテ之レヲ伸ハシテ置クコト
- 四、上體ハ正シク腰ノ上ニ落テ著ケテ且少シク前ニ傾ケルコト
- 五、兩肩ヲ稍々後ロニ引イテ一樣ニ之レヲ下クルコト
- 六、兩臂ハ自然ニ垂レテ掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸ハシテ之レヲ竝ヘ中指ヲ袴ノ縫目ニ當テ、置クコト
- 七、頸ヲ眞直ニシテ頭ヲ正シク保ツコト

八、口ヲ閉チテ置クコト

九、兩眼ハ十分ニ之レヲ開イテ前ノ方ヲ直視スルコト

第六、不動ノ姿勢ニ於テ教育上特ニ困難テ必要ナルコトハ

一、兩踵ヲ直チニ一線上ニ揃エルコトト

二、頭及上體ノ方向カ正シク開イタ足ノ方向ト一致スルコト

三、眼球ヲ運カサナイコト

等テアル

第七、立銃ニ於ケル不動ノ姿勢ニ於テハ前ニ述ヘタル外

一、右手ヲ以テ銃ヲ握ルノテ其ノ法ハ先ツ腕關節ヲ自然ノ位置ニ保

テテ銃身ヲ拇指ト食指トノ間ニ置キ其他ノ指ハ食指ト共ニ閉チ輕ク屈メテ銃床ニ添エテ置クコト

二、銃口ハ右臂ヨリ一握程(約十珊知)ヲ隔テルコト

三、銃身ヲ後ロニスルコト

四、床尾踵ヲ右足尖ノ傍ニ置クコト

五、銃身ヲ垂直ニ保ツコト

等テアル而シテ其ノ内特ニ注意スヘキ點ハ銃口カ右臂ヨリ一握程ヲ隔テ、銃身カ前ヨリ見ルモ横ヨリ見ルモ垂直ニ保持セラレテ有ルコトテアル

第八、不動ノ姿勢ヨリ休憩ヲ爲サシムルニハ次ノ如クセハ良イノデア
ル

一、先ツ左足ヲ出サスルコト

二、爾後片足ヲ舊ノ所ニ置イテ姿勢ト動カサルトニハ意ヲ留ムルコト

トナク休憩スルコト

三、休憩中ト雖モ談話ヲセサルコト

而シテ右ノ外執銃ニ於テハ照星ヲ擦ラナイ様ニ銃ヲ保タシムルコトニ注意セシムルノカ特ニ必要ナコトテアル

其二 右(左)向、半右(左)向及後向

第九、此ノ諸動作ノ速度ハ別ニ步兵操典ニ規定セラレテ有ラサレトモ銃ノ操作ト同シク速歩ノ速度ヲ以テ行フカ適當ナリト信スルノテアル

第十、右(左)向半右(左)向ノ動作教育ニ於テ注意スルノハ

一、左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵テ九十度或ハ四十五度ニ向ク

コト

二、右踵ヲ左踵ニ著ケテ同線ニ揃エサスルコト

等テアル

第十一、後向ノ動作ノ教育テ注意スヘキ點ハ

一、右足ヲ其方向ニ引イテ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離スコト

二、兩足尖ヲ少シ上ケテ臑ヲ屈ムルコトナク兩踵テ後ニ廻ハルコト

三、次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ケルコト

等テアル

第十二、執銃テハ右ノ外右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ小指ヲ木被ノ上ニ

當テ、腰ニ支エ動作終レハ直ニ之レヲ下ロスノテアル

第十三、右各種ノ動作ノ内テ特ニ注意ヲ要スルノハ其ノ角度テ正シク

新方向ニ位置スルヤ否ヤヲ執銃ニ在リテハ尙ホ動作ノ際銃カ體ノ動作ニ伴ヒテ殘ラナイ事テアル

其三 行進

第十四、歩兵操典第二十六ニ曰ク

行進ニハ威嚴ヲ保チ勇往邁進ノ氣象ヲ現ハサ、ルヘカラヌト

速步行進ハ不動ノ姿勢ノ停止間ニ於ケルト同シク行進ニ於ケル凡テノ動作ノ基礎トナルノミナラス其ノ要領ハ甚タ困難ナモノ故充分注意シテ嚴密ニ教育ヲセネハナラヌ

第十五、速步行進ノ教育テ一般ニ注意スヘキ諸點ヲ擧クレハ

一、左股ヲ少シク上ケテ脚ヲ前ニ出スコト

二、足尖ヲ僅ニ外ニ向ケルコト

三、上體ヲ少シク前ニ傾ケルコト

四、右足ヨリ七十五珊知米ノ所ニ脚ヲ伸ハシツ、故ラニ地面ヲ敲クコトナク踏著ケルコト

五、同時ニ臍ヲ地面ノ方ニ壓シテ伸ハシ全ク體ノ重ミヲ踏ミ著ケタ足ノ上ニ移スコト

六、左足ヲ踏著ケルト同時ニ右踵ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就イテ説示セシト同シ方法テ右脚ヲ前ニ出シ同距離ノ所ニ踏著ケテ行進ヲ續クルコト

七、兩足ヲ交叉セサルコト

八、膝ヲ必要ヨリ高ク上ケサルコト

九、兩肩ヲ廻サ、ルコト

十、頭ヲ眞直ニ保ツコト

十一、兩肩ヲ自然ニ保ツコト

等テアル

第十六、速歩行進ノ教育テ特ニ注意スルノハ

一、歩法ノ如何ニモ勇壯活潑ナルコト

二、歩幅カ七十五珊米テ其ノ速度カ一分間ニ百十四歩ニ踏歩シ得ル

コト

等テアル

第十七、速歩行進中歩調止メノ動作テハ

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トテ姿勢ヲ崩スサスニ

行進スルコトヲ教育スレハ良イノテアル

第十八、速歩行進中足踏ノ動作ノ教育ニ於テハ

一、足踏ヲ爲スニハ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メテ交々兩足ヲ踏ミ

著ケテ調子ヲ取レハヨイノテアル

二、更ニ行進ヲスルニハ左足ヨリ踏ミ出シテ續イテ行進スルノテア

ル

第十九、足踏ノ動作テ其ノ足ヲ上クル程度ハ別ニ步兵操典ニ規定セラ

レテナイナレトモ凡ソ足尖ヲ地面ヨリ十珊知位上クルノカ適當テア

ル

第二十、速歩行進中之レヲ止メサスルニハ後ノ足ヲ前ノ足ニ引キ著ケ、

テ止メサスレハ良イテアル

此ノ動作ハ駈歩行進ニ於テモ同様テアル

第二十一、行進間右左向ケノ動作ノ教育ハ先ツ左(右)足ヲ前ニ踏ミ著ケ其ノ足尖テ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進セシムルノテアル

第二十二、斜行進ノ動作ヲ教育スルニハ

- 一、行進間テハ左(右)足ヲ前ニ踏ミ著ケ其ノ足尖テ體ヲ半右(左)方
向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進セシムレハ良イノテアル
 - 二、停止間ヨリ直ニ斜行進ヲ爲サシムルニハ先ツ半右(左)向ヲ爲サシメテ新方向ニ行進サスルノテアル
- 而シテ直行進ニ復サスルニハ前ト同シ方法ヲ以テスルノテアル

第二十三、行進間後向キラ爲サシムルニハ先ツ左足ヲ前ニ踏ミ著ケ其

ノ足尖ヲ後ロニ廻ハシ右足ヲ左足ニ引キ著ケテ其儘止リ或ハ更ニ左足ヨリ行進サスレハ良イノテアル

第二十四、右行進間ニ於ケル右(左)向斜行進、後向ノ動作ノ教育ニ於テ注意スヘキ諸點ハ第十三ニ於テ述ヘント同様テアル

第二十五、駈歩行進ノ動作ヲ教育スル上ニ就テ一般ニ注意スヘキ諸點ハ

- 一、豫令テ兩手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニスルコト
- 二、動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其ノ法ハ兩脚ヲ屈メテ僅ニ左股ヲ上ケ足尖ヨリ下ロシテ右足ヨリ八十五厘米ノ所ニ踏著ケルコト
- 三、次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出スコト
- 四、常ニ體ノ重ミヲ踏ミ著ケタ足ニ移スコト

五、兩肘ヲ自然ニ振りテ續イテ行進スルコト
等テアル

第二十六、駈步行進ノ教育テ特ニ注意シテ教育スヘキ點ハ

- 一、足尖又ハ踵ヨリ踏ミ著ケシメサルコトト
 - 二、行進中反動ヲ付ケテ飛ヒ上カルカ如キ動作ヲセサルコト
 - 三、一步ノ長サヲ正シク八十五珊米トシ其ノ速度ヲ一分間ニ百七十歩ヲ基準トシテ行進シ得ルコト
- 等テアル

第二十七、駈步行進中之レヲ停止セシムルニハ二步前進シタ後速歩ト

同シ方法ニ依テ停止シ兩手ヲ下ロサスレハ良イノテアル

第二十八、駈步行進間ノ諸動作ハ速步行進間ニ於ケル要領ニ準シテ行

フモノナレトモ此ノ際ニ於テ異ナル點ハ

一、後向ヲ爲スニハ二步前進シタル後ニ行フコト

二、足踏、右(左)向、斜行進テハ通常速歩ニ於ケルヨリモ一步前ニ

動令ヲ下シテ行フコト

等テアル

第二十九、執銃ノ速步行進ハ「進メ」ノ動令テ銃ヲ擔ヒナカラ行進ヲ起

スモノテ駈步行進テハ豫令テ擔銃ヲ爲シ劍鞘ヲ握ルノテアル而シテ

「止レ」ノ動令テ停止シテ立銃ヲ爲スモノテアル

又銃ヲ擔フコトナク行進スル場合テハ右手テ少シク銃ヲ上ケ小指ヲ

木被ノ上ニ當テ、腰ニ支ヘ駈歩ヲ行フトキハ劍鞘ヲ握ラシメ停止ヲ

シタナレハ直ニ立銃ヲ爲サシムルノテアル

第三十、執銃ノ速歩行進テ發進ノ際特ニ注意シテ教育スルノハ速歩ノ速度ト銃ヲ擔フ舉動トカ、一步、一動毎ニ一致スルコトテアル

其四 立銃ヨリ擔銃及擔銃ヨリ立銃

第三十一、步兵操典第三十八ニ曰ク擔銃及立銃ハ臂及手ヲ以テ確實ニ行フモノテ其ノ舉動ハ速歩ノ速度ニ同シト
而シテ此ノ動作テ特ニ注意スルノハ各舉動毎ニ節度ノ有ルコトテ最モ確實ニ勢ヒノ有ル様ニ教育セネハナラヌ殊ニ立銃ヨリ擔銃ヲスル際ノ第一動及第四動、擔銃ヨリ立銃ヲスル際ノ第一動ヲ最モ敏活ニ要求セテハナラヌ斯クスルトキハ部隊トナリテ甚タシク活氣ヲ呈スルモノテアル

第三十二、立銃ヨリ擔銃ヲ行フ操作ノ教育テ一般ニ注意スヘキ諸點ヲ舉クレハ

第一舉動テハ

- 一、右手ヲ以テ銃ヲ上ケ拳ヲ概テ肩ノ高サニスルコト
- 二、銃身ヲ右ニシテ垂直ニスルコト
- 三、同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ肘ヲ下ケテ輕ク體ニ接スルコト

第二舉動テハ

- 一、左手ヲ以テ少シク銃ヲ上クルコト
- 二、銃身ヲ半ハ前ノ方ニ向クルコト
- 三、右手ヲ伸シテ食指ト中指トノ間ニ床尾踵ヲ置ク様ニ床尾ヲ握ル

第三舉動テハ

- 一、右手ヲ以テ銃ヲ右肩ニ擔ヒ銃身ヲ上ニスルコト
- 二、左手ヲ遊底ノ上ニ置クコト
- 三、右肘ハ輕ク體ニ接スルコト
- 四、床尾ノ環ヲ體ヨリ一握程離スコト
- 五、銃ハ上衣ノ釦ノ線ト平行サスルコト
- 六、槓桿ノ高サヲ概テ第一、ト第二釦ノ中央ニスルコト

第四舉動テハ

- 一、左手ヲ下ロスコト
- 等テ左手ハ殊ニ體ニ近ク活氣ヨク下ロサテハナラヌ

第三十三、擔銃ヨリ立銃ヲ爲ス操作ノ教育テ一般ニ注意セテハナラヌ

諸點ヲ舉クレハ

第一舉動テハ

- 一、右手ヲ伸ハシテ銃ヲ下ケ銃身ヲ半ハ右ノ方ニ向ケテ之ヲ垂直ニスルコト

- 二、左手ヲ照尺ノ下ヲ握ルコト

- 三、肘ヲ下ケテ輕ク體ニ接スルコト

第二舉動テハ

- 一、左手ヲ銃ヲ下ケテ銃身ヲ右ニスルコト
- 二、右手ヲ木被ノ所ヲ握リ其拳ヲ概テ肩ノ高サニスルコト

第三舉動テハ

- 一、銃身ヲ後ロニシテ之レヲ下クルコト
- 二、小指ヲ木被ノ上ニ當テ、腰ニ支エルコト
- 三、同時ニ左手ヲ下ロスコト

第四舉動テハ

- 一、靜ニ銃ヲ地ニ下ロスコト
- 等テアル

第五 著劍及脱劍

第三十四、步兵操典第四十一ニ曰ク

著劍及脱劍ハ停止行進間如何ナル姿勢ニ在リテモ之レヲ行フ著劍及脱劍ハ注目シテ行フモノトスト

此ノ動作ニ於テ特ニ要求スルノハ迅速テ且確實ナコトテアル

第三十五

著劍ノ動作ヲ一般ニ注意スヘキ諸點ヲ舉クレハ立銃ニ在ル

トキハ

- 一、右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ銃身ヲ少シク右ニスルコト
- 二、銃口ヲ概ネ體ノ中央ニスルコト
- 三、左手ヲ以テ逆ニ銃劍ノ柄ヲ握リ銃劍ヲ抜キテ確カニ銃口ノ所ニ著ケルコト

等テアル

第三十六 脱劍ノ動作テ一般ニ注意ヲ要スル諸點ヲ舉クハレ立銃ニ在

ルトキハ

- 一、右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ左手ニテ銃劍ノ柄ヲ握ルコト

- 二、右手ヲ上ケ其拇指ニテ駐筭ヲ押スコト
- 三、左手ニテ銃劍ヲ脱シ之ヲ右ノ方ニ倒シテ劍尖ヲ下ニシ右手ノ食指、中指ト拇指トニテ刃ヲ挟ミテ持チ其餘ノ指ニテ銃ヲ保ツコト
- 四、左手ヲ翻シテ柄ヲ握リ銃劍ヲ全ク鞘ニ納ムルコト
- 五、左手ヲ以テ右手ノ下ヲ握ルコト
- 六、右手ヲ下ケテ木被ノ所ヲ握ルコト
- 七、兩手ヲ以テ銃ヲ起シ立銃ノ位置ニ復スルコト

其六 彈藥ノ裝填及抽出

第三十七 步兵操典第四十四ニ曰ク

裝填ハ屢々教習シテ熟達セシムルヲ要ス是レ兵卒ハ如何ナル姿勢ト

場合トヲ問ハス確實迅速ニ行フヲ要スレハナリト

故ニ裝填ノ動作ハ一層注意シテ教育シ之レニ熟達セシメネハナラヌ
 又彼ノ裝填ノ際彈藥ヲ地上ニ落スカ如キ者アレハ勿論過失ナレトモ
 未タ充分教育セラレタルモノトハ云ハレヌノテアル
 新兵ノ教育時代ニ於テハ迅速ハ勿論ナレトモ殊ニ確實ノ演習テアル
 然レトモ古兵ハ已ニ確實ナル上ニ更ニ益々其レカ迅速ノ演習テ各種
 ノ姿勢テ行進間ト停止間トニ論ナク時ニ夜間ニ於テ或ハ後方彈藥盒
 ヲ使用セシメ又競争ヲ行ヒテ教育シ以テ步兵操典ノ要求ニ應セシメ
 ネハナラヌ

第三十八 裝填ノ動作ヲ教育スル際一般ニ注意スヘキ諸點ヲ舉クレハ
 次ノ如クテアル

立銃ニ在ルトキ

- 一、頭ヲ正面ニ保チタル儘半右向ヲ爲シツ、右足ヲ新線上右ノ方ヘ約半歩ノ所ニ踏開クコト
- 二、同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツ、前ニ倒スコト
- 三、左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所ヲ握リ其臂ヲ體ニ著ケ指ハ銃床ノ溝ニ置クコト
- 四、銃口ヲ眼ノ高サニスルコト
- 五、床鼻ヲ右乳ヨリ少シク下ニスルコト
- 六、床尾ヲ體ニ接スルコト
- 七、右手ヲ以テ下ヨリ槓杆ヲ握リ之ヲ起シツ、十分後ニ引クコト
- 八、彈藥盒ノ蓋ノ留革ヲ脱シ其蓋ヲ開クコト

九、注目シテ彈藥ヲ撮ミ出シ彈頭ヲ前ニシ插彈子溝ニ嵌ムルコト

十、拇指ノ頭ヲ彈藥ノ後部ニ當テ彈倉内ニ押シ入レルコト

十一、槓杆ヲ握リ遊底ヲ閉ツルコト

十二、右掌ヲ以テ擊莖駐脚ヲ抽シ右ニ廻ハシ(三十年式歩兵銃ニ在

リテハ食指ヲ以テ副鐵鈎ヲ後ロニ引キ九十度右ニ廻ス)銃ヲ安全

装置ニスルコト

十三、前方ヲ直視スルコト

十四、彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛クルコト

十五、木被ノ所ヲ握リ舊方向ニ向キツ、右足ヲ左足ニ引キ著ケ立銃ヲ

爲スコト

第三十九、彈藥ヲ抽キ出サシムル動作ノ教育ニ一般ニ注意スヘキ諸點

ヲ述フレハ次ノ如クテアル

立銃ニ在ルトキ

- 一、先ツ裝填ニ示セルト同一ノ姿勢ヲ取ルコト
- 二、右手ヲ以テ彈藥盒ノ蓋ノ留革ヲ脱スルコト
- 三、注目シテ右掌ヲ以テ擊莖駐脚ヲ押シ左ニ廻ハシ（三十年式歩兵銃ニ在リテハ食指ヲ以テ副鐵鈎ヲ後ロニ引キ九十度左ニ廻ハス）銃ヲ擊發裝置ニスルコト
- 四、在手ヲ尾筒ノ所ニ持チ來シ其四指ヲ伸ハシテ方窓部ニ當ツルカ如クスルコト
- 五、徐ニ遊底ヲ進退シテ彈藥ヲ出シ之ヲ彈藥盒ニ收ムルコト
- 六、彈藥ヲ出シ盡セハ左手ノ中指ト無名指トニテ受筒飯ヲ壓シテ遊

底ヲ閉ツルコト

七、引鐵ヲ下ロスコト

八、前方ヲ直視スルコト

九、彈藥盒ノ蓋ヲ閉シ留革ヲ掛クルコト

十、次ニ前問題ト同様立銃ヲ爲スコト

其七 射擊

第四十、歩兵操典第四十八ニ曰ク

射擊ノ動作ハ如何ナル場合ニ在リテモ正確ニ實施シ得ル如ク熟セシムヘシト

殊ニ射擊ノ姿勢ノ良否ハ命中成績ニ大ナル關係ヲ有スルモノテアル

故ニ宜ク射撃教範ノ示ス要領ニ從ヒ十分綿密ニ注意シテ教育セネハナラヌ

射撃ノ姿勢中特ニ注意シテ教育スルノハ伏射ノ姿勢テアル何セナレハ伏射ハ照準カ容易テ射撃効力ヲ發揚スル事カ出來且敵ノ照準ヲ困難ナラシムルモノ故戰場ニ於テハ最モ多ク用ヒラル、ノミナラス此ノ姿勢ノ教育ノ他ノ姿勢ニ比シテ甚タ困難テアルカラテアル

第四十一、立銃ニ在ルトキ立銃ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ裝填ニ於ケル

カ如クニ銃ヲ構エテ右手ヲ以テ銃把ヲ握レハ良イノテアル

立射ノ姿勢ニ於テ殊ニ注意シテ教育スルノハ

- 一、足ノ開キ方殊ニ兩足尖ノ向キ
- 二、左臂ノ位置ヲシテ成ルヘク重點ノ下ニアラシムルコト

等テアル

第四十二 膝射ノ姿勢ヲ教育スルニ當リ一般ニ注意スヘキ諸點ヲ述

レハ次ノ如クテアル

立銃ニアルトキ膝射ノ姿勢ヲ取ルニハ

- 一、半右向ヲ爲シツ、右足尖ヲ左足ノ延線上其踵ヨリ約半歩後ロエ引クコト

二、左手ヲ以テ劍鞘ヲ前ニ拂フコト

三、右脚ヲ左足ノ方向ト殆ント直角ナル如ク平ニ地ニ著ケ臀ヲ右足ニ載セ左脚ヲ立ツルコト

四、同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ左手ヲ以テ立射ノ如ク之ヲ保チ其前臂ヲ左膝ノ上ニ置クコト

五、床尾飯ヲ右股ノ内部ニ當ツルコト

六、右手ヲ以テ銃把ヲ握ルコト

七、上體ヲ自然ノ方向ニ眞直ニ保ツコト

第四十三 膝射ノ姿勢ニ於テ殊ニ注意シテ教育スルノハ右足ノ引キ方及臀ノ据エ方テアル

第四十四、伏射ノ姿勢ヲ教育スルニ當リ一般ニ注意スヘキ諸點ヲ述フレハ次ノ如クテアル

立銃ニ在ルトキ伏射ノ姿勢ヲ取ルニハ

一、左手ヲ以テ彈藥盒ヲ左右ニ開キツ、半右向ヲ爲スコト

二、床尾ヲ前方約一步ノ所ニ出スコト

三、其ノ方向ニ於テ兩膝ヲ地ニ著ケルコト

四、直ニ左手ヲ兩膝ノ前ニ出シ地ニ著ケルコト

五、上體ヲ射撃方向ニ對シ約三十度ニシテ伏臥スルコト

六、立射ノ如ク銃ヲ保チ銃把ヲ腮ノ稍前ニ在ル如クシ兩肘ヲ地ニ

支フルコト

第四十五、伏射ノ姿勢テ特ニ注意シテ教育スルノハ

一、發射方向ニ對スル體ノ向キ

二、左手ノ著キ方

三、頬着

等テアル

第四十六、射撃ノ何レノ姿勢ニ於テモ注意スヘキ諸點ヲ擧クレハ次ノ如クテアル

一、頭ヲ舊方向ニ保ツコト

二、銃口ヲ眼ノ高サニスルコト

三、銃ヲ擊發裝置ニスルコト

四、右手ノ食指ヲ用心鐵ノ内ニ入レテ伸ハスコト

五、裝填シアラサルトキハ銃ヲ構エタル後直ニ裝填スルコト

此ノ際殊ニ銃口ノ振レサルコトニ注意セネハナラヌ

第四十七、擊方待テノ際ニハ殊ニ食指ヲ伸ハスコトニ注意ヲセネハナラヌ

第四十八 擊方止メノ動作ヲ一般ニ注意スヘキ諸點ハ

一、銃ヲ安全裝置ニシテ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケ照尺ヲ舊位ニ復スルコト

二、立射ニ在リテハ裝填ニ於ケル如クスルコト

三、膝射ニ在リテハ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リテ起テ舊方向ニ向キツ、右足ヲ左足ニ引著ケルコト

四、伏射ニ在リテハ伏射ノ姿勢ヲ取リタルトキト概ネ反對ノ順序ヲ以テ起チ立銃ヲ爲スコト等テアル

其八 折敷及伏セ

第四十九、折敷及伏セノ動作ハ敵ノ通視並ニ銃砲彈ノ損害ヲ避クルモノテ迅速ヲ要スルノテアル故ニ停止、行進間殊ニ駐歩間ヨリ其ノ横隊タルト縦隊タルトニ係ラス直ニ其ノ姿勢ヲ取ルコトノ出來ル様ニ基礎ヲ作ラネハナラヌ

其九 突 擊

第五十、歩兵操典第百六十二ニ曰ク

戦闘ノ進捗ニ從ヒ損傷ヲ補充シ尙散兵ヲ増加シテ火力ヲ増シ漸次敵ニ近接シ適時銃劍ヲ著ケ終ニ敵ニ肉薄シ得ルニ至レハ中隊長ハ先頭ニ立チ第百〇二ニ準シ中隊ノ全力ヲ擧ケテ猛烈果敢ニ敵陣ニ突入スヘシ中隊ノ精神的團結ノ鞏固ハ實ニ此瞬間ニ發現スルモノナリト

第百六十三ニ曰ク

一回ノ突撃ニシテ若成功セサルトキ縦ヒ他隊ノ援助ヲ缺クモ志氣旺盛ニシテ精練ナル中隊ハ再三、再四突撃ヲ反覆シ得ルモノナリ苟モ死力ヲ盡シテ奮進セハ如何ニ頑強ナル敵ト雖終ニ之ヲ敗滅ニ陥ラシ

ムルコトヲ得ヘシト

第百八十九ニ曰ク

頑強ノ敵ニ對シテハ一回ノ突撃能ク功ヲ奏セサルコトアリ此ノ場合ニ在リテハ適當ナル位置ニ陥止リ更ニ突撃ノ機會ヲ喚起シ百折不撓ノ勇氣ヲ現ハシ飽クマテ突撃ヲ反覆スヘシト

第二部第四十二ニ曰ク

突撃ヲ撃退セラレタル場合ニ於テ尙密集部隊ヲ有スルトキハ其推進ニ依リ第二、第三回ノ突撃ヲ敢行スヘシ縦ヒ推進部隊ナキトキト雖幹部ト兵卒トノ勇氣ニ依リ至近ノ所ニ踏止マリ猛烈ナル射撃ヲナシ氣勢ヲ恢復シテ屢々突撃ヲ繰返シ終ニ其目的ヲ達スルニ至リテ止ムヘシト

操典ニ要求スル所右ノ如クテアル宜シク平時ノ教練ニ於テ精神的ノ
注入ヲ計ラネハナラヌ

第五十一、突撃ノ動作ノ教育上一般ニ注意スヘキ諸點ヲ擧クレハ次ノ
如クテアル

此ノ動作ハ著劍シテ後號令ヲ下スモノナレトモ時トシテハ著劍セス
ニ號令ヲ下シ各兵卒ヲシテ隨意ニ着劍シテ行ハシムルコトヲ應用ト
シテ實施シ置クノカ良イ

一、豫令ニテ右手ヲ以テ木被ノ所ニ就キ銃ヲ提ケルコト

二、若擔銃ニ在ルトキハ擔銃ヨリ立銃ノ動作ニ準シ銃ヲ肩ヨリ下ス
コト

三、床尾ヲ少シク地面ヨリ離スコト

四、銃口ヲ概ネ右肩ノ前ニ在ラシムルコト

五、左手ヲ以テ劍鞘ヲ握ルコト

六、動令ニテ駈歩ト同要領ニテ前進スルコト

七、次テ「突込メ」ノ號令ニテ呐喊シ猛烈果敢ニ敵ニ向ヒテ突入シ格
闘スルコト

止レノ號令ニテ停止シテ立射ノ構ヲ爲スノテアル

其十 散兵

第五十二、操典第五十五ニ曰ク

散兵ノ教練ハ兵卒ニ散兵線中ノ一人トシテ散兵ノ動作即チ地形ヲ利
用シテ

- 一、行進シ
 - 二、停止シ
 - 三、射撃シ
 - 四、突撃スルコト
- ニ熟セシメ且攻撃精神ヲ養成スルヲ目的トスト
- 右ノ要求ニ應スル如ク一般ニ亘リ復習ヲセネハナラヌ散兵ノ任務ハ重要テ且困難ナモノテアル殊ニ銃ヲ地物ニ依托スル射撃及胸墻ニ據ル射撃等ハ至ル處其趣ヲ異ニスル故各種ノ地形、時機ニ於テ適當ニ動作シ得ル如クニ復習シ教育セネハナラヌ

第二 野外要務ニ屬スルモノ

第五十三、野外要務ニ屬スル教育ハ最モ趣味アリテ且實際的テナケレハナラヌ而シテ此ノ動作ハ凡テ兵卒ノ記憶上最モ困難ナルモノデア
ル故ニ成ルヘク教育ノ回数ヲ多クシテ實地ニ就テ教育セネハナラヌ

第五十四、此ノ教育ニ就テ兵卒ニ必要ナル動作ハ

- 一、斥候ノ動作
- 二、歩哨ノ動作
- 三、傳令使ノ動作

其他細別スレハ連絡兵、遞歩哨、展望哨等テアル

第五十五、右各種ノ動作ノ教育中特ニ必要ニシテ困難ナノハ斥候ノ動作テアル抑モ斥候ハ要務令ニ於テ、慧敏、熱心、沈着、豪膽ナル四ツノ性質ヲ要求セル如ク實際ニ當リ各種ノ異ナル情況、殊ニ地形ニ應

シテ臨機應變ノ處置ヲ必要トスルコト甚々大テアルカラテアル殊ニ古兵ハ第二期以後ニ於テハ初年兵ヨリ成ル斥候群ノ長トシテ動作スルコト屢々アルモノ故特ニ此ノ點ニ注意シテ教育セネハナラヌ

第三 射擊教育ニ屬スルモノ

其一 射擊豫行演習

第五十六、射擊豫行演習ノ教育テ最モ不可トスルノハ兵卒ヲシテ「役目的」ノ演習ヲサスルコトテアル彼ノ監視者ノ近クニ從ヒテ横目ヲ使ヒ演習ヲ行フカ如キ者アルニ至ツテハ一ノ益カナイノミテナク返リテ害ヲ及ホスモノテアル

故ニ此ノ演習ニ於テハ兵卒各自カ一發ノ確實ナル豫行演習ハ役目的

ナル演習ノ數十發ニ優ルコトヲ自確シ自ラ好ンテ精神誠意實行スル如クニ指導監視ヲセネハナラヌ

第五十七、此ノ教育ニ於テ擊發ノ後ハ豫想スル彈着點ハ勿論凡ソノ點數ヲモ豫言シ得ル如クニセネハナラヌ而シテ特ニ必要ナルハ標的ヲ設置スルニ當リ監視者ハ豫メ二百ナリ三百ナリ其ノ時ノ目的ニ應シテ距離ヲ計リテ立テ兵卒ヲシテ各自ノ銃ニ依ル偏避ヲ顧慮シ黑點ノ下際ヲ照準セシメス、其ノ距離ニ應シ實際教練射擊ニ於テ指向スル照準點ニ向ヒ照準セシムル如ク指導セネハナラヌ

單ニ若干距離ニ少ナル黑點ヲ印シタル標的ヲ立テ其ノ黑點ノ下際ニ向ヒ豫行演習ヲ實施スルカ如キハ其ノ價值甚々少ナキモノテアル

第五十八、目下射擊豫行演習ノ實施ヲ見ルニ多クハ伏射ニノミ傾ケル

カ如ク感スルノハ甚タ遺憾テアル勿論立射、膝射、伏射ノ區別ナク
平等ニ教育スルノカ必要テアル

其二 据銃演習

第五十九、据銃演習ハ射擊教範ニモ要求セル如ク据銃ヲ敏捷確實ナラ
シムル爲メニハ特ニ必要ナ課目テアル故ニ間稽古ノ際ハ勿論諸種ノ
演習ノ際適當ノ時間ヲ利用シテ實施スルコトヲ心掛ケネハナラヌ

第六十、据銃演習ハ元來立射ノ姿勢ニ於テノミ實施セラレ居ルカ如キ
感アルモ之レハ甚タ間違ヒテアル立射勿論常ニ膝射、伏射ニ於テモ
同様之レカ實施ヲ計ラネハナラヌ

第六十一、据銃演習ニ於テハ單ニ据銃ノ敏捷ノミニ注意セス他ノ射擊

ノ動作即チ

一、銃把ノ握リ方

二、肩 着

三、頬 着

等モ正シク實行シ得ル如ク要求指導ヲセネハナラヌ

其三 照準鑑査法及照準ノ修正法

第六十二、一、照準ノ鑑査法

二、正シク照準ノ見學

三、照準ノ修正法

等ノ演習ハ兵卒ヲシテ照準ヲ綿密ニナラシムル良習慣ヲ養成スルニ

最モ効果アルモノ故古兵ト雖モ絶ヘス之レヲ實施セネハナラヌ

其四、狹窄射撃

第六十三、狹窄射撃ノ目的ハ射撃動作殊ニ照準及撃發ノ要領ヲ習得セシメ且射撃ノ熟練ヲ維持スルニ在ルモノ故ニ各人ニ就イテ綿密ニ注意シテ常ニ實施セネハナラヌ

其五、教練射撃

第六十四、教練射撃ノ目的ハ

一、基本射撃ニ於テハ射撃術ノ基礎ヲ精密ニ練習シ併セテ銃器ノ特別ナル性質ヲ檢知シ之レヲ修正スルコトヲ知得セシムルニ在リ

二、實習射撃ニ於テハ基本射撃ニ於テ知得シタル技能ヲ漸次遠隔セル目標ニ應用シテ銃ノ用法ニ慣熟セシメ以テ射撃ニ熟達セシムルニ在リ

ト而シテ古兵ハ前年度ニ於テ二等射手トシテ十四個習會ノ教練射撃ヲ終了シタノミナラス射撃教育ノ完成ヲ目的トスル戰鬥射撃モ一通リ實施シタル後ナルヲ以テ教育者タル者ハ能ク其ノ意ヲ體シテ決シテ粗雜ニ流ル、コトナク益々綿密ナル注意ヲ以テ射撃ニ熟達セシメ其ノ目的ニ合スル如ク指導セネハナラヌ

第六十五、教練射撃ニ於テ最モ必要ナル注意ハ各兵卒ヲシテ必ス「無駄彈」所謂「アイマイ」ノ彈ヲ打タセヌコトテアル。即チ火線ニ於テ發射ニ望ミ射手カ

一、自己ノ精神ノ沈着シ居ラサルニモ係ラス万一ノ僥倖ヲ期シテ發射スルカ如キ

二、銃口ノ止マラサル爲メ照準ノ甚タ長クナリタルトキ又ハ同様何同モ照準ヲ爲シタル爲メ時間ヲ取り過ギタリト考ハ未タ自己ノ銃ニ對スル照準點ヲ正シク照準シ得サルニモ係ラス擊發スルカ如キ事テアル斯カル場合ニ於テハ其ノ成績ノ不良ナルハ明カナ事實テアル故ニ監視者ハ射撃ノ實施ノ始メニ當リ一般必要ノ注意ヲセネハナラヌ

第六十六、教練射撃ノ際射場ニ於テ兵卒ニ各種ノ注意ヲ與フルヲ不可トシ其ノ欲スル儘ニ射撃セシムレハ其ノ結果ノ良好ナルコトヲ唱フル者アル如キモノハ策ノ得タルモノテハ無イト思ハル何トナレハ例

令古兵ト雖モ惡習ヲ有スル者ハ無皆ト云フコトハ出來サルノミナラス又其ノ時ニ依リ自己ノ知ラサル誤チヲ犯カシテ居ル者モナキニ非ラサルヘシ故ニ射撃ニ於テハ何レノ場合ヲ問ハス監視者必ス射手ノ側ニ位置シテ其ノ据銃ノ方法及發射ノ際ニ於ケル眼ノ状態其ノ他引鐵ノ引キ方等時ノ必要ニ應シテ適切ナル注意ヲ促シテ射撃術ヲシテ益々熟達スル如クニ指導スルモノテアル

其六 距離測量

第六十七、距離測量ノ教育ハ最モ緊要ナルモノテアル何トナレハ其ノ熟否ハ直ニ戰鬪ニ於テ射撃ノ効力ニ影響ヲ及ホスモノテ銃器カ精良ナル程尙更テアル之レ彈丸ハ常ニ裝置シタル照尺ト同一ノ距離ニ落

ツルモノテ如何ナル良射手ト雖モ命中シナイノハ當然テアル故ニ古兵ニハ練兵場其他野外演習行軍等ノ途中ニ於テ色々ノ地形、時機、天氣等ヲ利用シテ此ノ教育ヲ實施スルノカ良イ

第六十八、古兵ニ教育スヘキ距離測量ノ方法ハ新兵ト同様歩測及目測ノ方法テアル

第六十九、歩測ノ方法ハ百米突ノ距離ニ於ケル基準ノ踏歩ヲ復習シ尙各種ノ目標ヲ撰ミ最初目測サセテ後歩測シテ之レヲ檢セシメルノカ良イノテアル

古兵ハ不齊地ニ於テモ尙適當ニ其ノ距離ヲ取捨シテ中距離ヲ歩測シ得ル迄教育セネハナラヌ

第七十、目測ノ方法ハ各種基準距離ニ於ケル視定法ノ復習ハ勿論漸次

各種ノ目標ヲ目測セシメ彼等ヲシテ迅速ニ遠距離ニ近キ距離ニ至ル迄誤ルコトナク目測シ得ル如クニ教育セネハナラヌ

第四 野戰築城ニ屬スルモノ

第七十一、古兵ノ第一期間ニ於テ行フ工作ハ凡ソ二、三回、五、六時間テアル故ニ單ニ膝射、立射ノ散兵壕構築ノ演習ヲ實施スレハ良イノテアル然シ時機ヲ得タナレハ各種ノ工作物ヲ見學サスルコトヲ心掛ケテ置カネハナラヌ

第五 體操ニ屬スルモノ

第五章 各科目ノ教育要領

第七十二、體操教育ノ目的ハ體力及氣力ヲ養成スルノテ之レヲ分タハ

次ノ三ツテアル

一、徒手體操

二、器械體操

三、應用體操

而シテ各種體操ノ目的ハ

一、徒手體操ハ體力ヲ發達セシメ健康ヲ保全シ各機關ノ機能ヲ完全

ニシ成育ノ不正ヲ矯正シテ軍人ノ姿勢ヲ得セシメ且動作ヲ敏活ナ

ラシムルノテアル

二、器械體操ハ筋力ヲ鞏強ニシ身體ヲ輕捷ナラシメ活潑勇敢ノ氣象

ヲ養成スルノテアル

三、應用體操ハ各種ノ地區地物ニ遭遇スルモ踟躕スルコトナク諸種

ノ方法ヲ應用シテ容易ニ之ヲ通過シ得セシムル爲メテアル

第七十三、徒手體操ノ教育ハ各個教練ト同シク各個ニ實施スルノカ必

要テアル故ニ各個教練ト連繫シテ行フノハ勿論器械體操ヲ實施スル

初メニ於テハ必ス二三十分間之レヲ嚴密ニ行ヒテ綿密ニ各人ノ惡習

ヲ矯正セシメネハナラヌ

第七十四、器械體操ハ第一教及第二教ノ運動ヲ施行スルノテ其内第一

教ノ運動カ確實ニ實施シ得レハ其レテ充分テアル例令ヘ古兵タリト

モ徒ニ其ノ進歩ヲノミ計ルノハ返リテ教育上ニ害ヲ及ホスモノテア

ル

第七十五、應用體操ハ各種ノ障碍物ニ對シテ之レヲ超越スル爲メノ應

用法ヲ綿密ニ各個ニ教育スルノテアル未タ其ノ充分ナラサルニ係ラ
ス競走通過ノミヲ實施スルカ如キハ策ノ得タルモノテハナイノデア
ル

第六 銃劍術ニ屬スルモノ

第七十六、劍術ノ目的ハ白兵ノ使用ニ習熟シ且體力殊ニ氣力ヲ養成シ
テ攻撃精神ヲ發揚スルノデアアル

第七十七、歩兵ハ殊ニ此ノ教育ヲ完成サセネハナラヌ何セナレハ抑モ
白兵ハ火器ト相併テ戰鬥ノ勝敗ヲ左右スルモノテ火器ノ進歩ト共ニ
夜戰ノ利益ハ益々認メラレ最近戰役ノ結果頑強ナル敵ヲ壓倒スルニ
ハ必ス白兵ヲ使用スルノ必要ヲ感セラル、ニ至レリ而シテ今ヤ歩兵

操典ハ改正發布セラレ銃劍突擊ノ價值ヲ唱導セラレ若兵卒ニシテ彈
藥ヲ射盡シ又ハ敵ノ重圍ニ陥リタルトキハ自己ノ銃劍ニ信賴シテ最
後ノ勝利ヲ得ルコトヲ要求スルニ至ツタカラデアアル

第七十八、此ノ教育ハ各個ニ行ハネハナラヌ之レカ爲メ能ク習技者ノ
性質ト體格トヲ審カニシテ漸次姿勢ノ正確ト動作ノ確實ト快速及氣
勢ノ充實ヲ得セシムル様ニ綿密ニ注意シテ指導セネハナラヌ而シテ
最初ノ教授カ不完全ナ時ハ不良ノ姿勢、技癖ヲ生シテ遂ニ固着シテ
除去スルコトカ困難ニナルモノ故基本動作ノ教育ニ於テ充分注意シ
テ矯正スルノカ必要デアアル

第七十九、古兵ニ教育スルモノハ

一、基本演習

二、試合演習

共ニ實施スルノテ試合演習ハ

一、教習試合

二、合格試合

ノ二ツニ分チテ教育スルノテアル此ノ内基本演習ハ充分綿密ニ教育シ決シテ過早ニ試合演習ニ移ツテハナラヌ

第八十、古兵ヲシテ合格試合ヲ爲サシムルトキニハ充分綿密ニ審判ヲナシ其ノ可否ニ就テ其ノ都度例令僅少ノ事ナリトモ講評シ又ハ注意ヲシテ指導スルノカ緊要テアル抑モ合格試合ニ於テ審判ノ良否ハ其ノ技術ノ進歩ニ甚タシキ良否ヲ生スルモノテアル

第七 夜間動作ニ屬スルモノ

第八十一、夜間動作ノ教育ハ重要ニシテ又頗ル困難ナモノテアル現今火器ノ進歩ト共ニ夜間動作ノ必要トナレルハ明カナル事實ニシテ最近戰役ニ於テモ大ニ其實例ヲ示シ居ル

第八十二、夜間動作ノ教育ハ如何ナル程度マテ行フヤト云フニ兵卒ヲシテ夜間ノ動作モ晝間ノ動作ト異ナルコトナク動作シ得ネハナラヌ之レカ爲メ教育ニ於テ必要トスル所ハ

- 一、兵卒ヲシテ夜間ニ於ケル恐怖心ト疑惑心トヲ除去サスルコト
- 二、運動ヲシテ輕快ニサスルコト
- 三、夜間ノ爲メニ生スル疲勞ヲ減スルコト
- 四、各個ト部隊トヲ問ハス能ク動作シ得ルコト

等テアル

第八十三、夜間動作ノ教育ハ一兵卒ノ動作ヲ他ノ者ニ目視サセ其ノ良シ惡ヲ講評シ説明スルコトカ出來ス術科ト學科ト併行シテ教育スルコトカ困難テアル故ニ凡テノ動作ハ口授シテ後實行ニ移ルコトクセネハナラヌ而シテ其ノ實行ニ當リテハ例令復習ノ課目タリトモ凡テ順序的ニ教育セネハナラヌ

第八十四、各種ノ動作中斥候ノ動作ハ殊ニ注意シテ教育スルコトカ必要テアル斥候ノ動作ノ夜間ニ於テ殊ニ重要ニシテ困難テアルコトハ勿論テアル而シテ古兵中ニハ第二期ニ至タレハ夜間演習ノ際ニハ初年兵ヨリ成ル斥候ノ長トシテ屢々動作スルモノナルヲ以テ各任務、地形等ニ應シテ適當ニ動作シ得ル如ク教育セネハナラヌ

第八 敬禮ニ屬スルモノ

第八十五、敬禮ハ實ニ軍紀ヲ維持スル基テアル故ニ古兵ト雖モ亦時機ヲ得ル毎ニ屢々之レヲ實施シテ彼等ヲシテ敬禮ノ忽ニスヘカラサルコトヲ自覺セシメネハナラヌ

第八十六、敬禮ノ動作ハ頗ル多様テアル即チ徒手若クハ執銃ニ於テ直屬上官又ハ他ノ上官ニ對シテ停止或ハ行進間ノ敬禮其他上官ニ對シ物品ノ受渡等凡テ一通リノ復習ハ實施セネハナラヌ

第八十七、立銃ヨリ捧銃及捧銃ヨリ立銃ノ動作ハ敬禮ノ際ニ行フモノ故最モ嚴格ニ且立派ニ出來ル様ニ教育セネハナラヌ

第八十八、立銃ヨリ捧銃ヲ爲サシムル動作ノ教育テ一般ニ注意スヘキ

諸點ヲ舉クレハ次ノ如クテアル

第一舉動ニ於テハ

一、右手ヲ以テ銃ヲ上ケ體ノ中央ニ持チ來ルコト

二、銃身ヲ後ロニシ之ヲ垂直ニスルコト

三、同時ニ左手ヲ以テ木被ノ下ニ接シテ銃ヲ握リ拇指ヲ銃床ニ沿エ

テ伸ハスコト

四、前臂ヲ輕ク體ニ接シ殆ント之レヲ水平ニスルコト

第二舉動ニ於テハ

一、右手ヲ以テ輕ク銃把ヲ握ルコト

第八十九、捧銃ヨリ立銃ヲ爲サシムル動作ノ教育テ一般ニ注意スヘキ

諸點ヲ舉クレハ次ノ如クテアル

第一舉動ニ於テハ

一、右手ヲ以テ木被ノ處ヲ握ルコト

二、右肘ヲ輕ク體ニ接スルコト

第二舉動ニ於テハ

一、右手ヲ以テ銃ヲ下ケ小指ヲ木被ノ上ニ當テ、腰ニ支エルコト

二、同時ニ左手ヲ下ロスコト

第三舉動ニ於テハ

一、銃ヲ靜ニ地ニ下ロスコト

第九十、立銃ヨリ捧銃ヲ爲ス動作テ特ニ注意スルノハ

一、銃ヲ直ニ體ノ中央ニ持チ來ルコト

二、銃身カ前ヨリ見ルモ横ヨリ見ルモ垂直ナルコト

テアル

第九 衛兵ニ屬スルモノ

第九十一、衛兵ニ屬スル各種ノ動作ハ必ス一通リノ復習ハ之レヲ實施シテ其ノ應用法ヲ確實ニ施行シ得ル如ク教育セネハナラヌ

第三節 學科ノ教育

第九十二、古兵ニ教育スヘキ學科ハ本章第三ニ於テ述ヘシ各種ノ課目ヲ前年度ニ於テ教育セラレタモノ、復習ト尙ホ之レニ兵卒トシテ知得シテ居ラネハナラヌ事項ノ比較的高尙テ復雜ノモノヲ撰ヒテ綿密ニ教授シ其ノ教育ヲ完成セネハナラヌ
例令ハ
新兵ニアリテハ

橋梁トハ橋ノコトテ何々ノ種類カアル

ト教授シタリトセハ

古兵ニ教育スルニハ

橋ハ人、馬車輛ナトノ交通スル爲メニ造ツタモノテ何々ノ材料ヨリ

造作サレタモノテアル

ト教ユルカ如キテアル

第九十三、抑モ學科ハ術科ノ補助ノ如キモノテ術科ト勤務ノ實行トヲ確實ナラシムルノカ目的テアル故ニ學科ニ於テ教育スヘキ課目テモ實際ニ實驗シ又ハ施行シ得ルモノハ成ルヘク實行スル如ク指導スルノカ良イ然シ科目ニ依リテ一室ニ集メテ教育セネハナラヌモノハ能ク實物ヲ示シテ圖解シ又ハ卑近ノ實例ヲ舉ケテ了解セシメネハナラ

又而シテ室内ノ學科ハ彼等ニ倦怠ノ念ヲ生セシメ易キモノ故適當ニ
問答ヲ混シテ常ニ精神ヲ輕快ニシ能ク教官ニ視線ヲ集注サスルコト
カ必要テアル之カ爲メ教官タルモノハ充分計畫ヲ立テ、彼等ノ理解
及記憶ヲ容易且確實ニスルコトヲ心掛ケネハナラヌ

第九十四、復習ノ際ニ試問ヲ行フニハ判リ易キ言葉ヲ用ヒテ一般ニ亘
リテ先ツ問題ヲ與エテ後答解者ヲ指名スルノカ良イ而シテ若シ答解
シ得ナイドキ又ハ誤リカ在ツタトキハ更ニ之レヲ他ノ者ニ轉シテ答
ヘシムルノカ有利テアル要スルニ學科ノ教育ハ適切ニ必要ナル事項
ヲ修得サセ彼等ヲシテ應用ノ能力ヲ發達セシムル如ク指導スルノカ
緊要テアル

第九十五、精神教育ニ於テ最モ必要ナコトトハ日常起居ノ間ニ於テ發
生スル事々物々ニ當リテ機會ヲ失ハス時機ヲ誤ラス實行ヲ以テ模範
ヲ示シ模範ヲ以テ行爲ヲ教エ精神ヲ以テ精神ヲ導キ彼等ヲシテ其誠
意ニ感セシメ不知不識ノ間ニ精神ノ涵養ヲ圖ラネハナラヌ然ルニ單
ニ訓話等ニ依リテ其ノ效果ヲ收メントスルカ如キハ大ナル誤リテア
ル抑モ軍隊ニ於ケル精神教育ハ勅諭ノ御主旨ヲ奉戴シテ忠君愛國ヲ
基礎トスル道德テ元來無形的ノモノテアル故ニ一朝一夕ニ於テ其ノ
効果ヲ得ントスルノハ不可能ノコトテアル故ニ其ノ講堂ニアルノト
又野外ニアルノト其ノ勤務中ニアルノト勤務外ニアルノトヲ問ハス
常ニ之ト接シ或ル事物ニ感スル毎ニ之レヲ訓戒シ教化シテ常ニ自己
ノ精神ヲ以テ彼等ニ移ス如ク之ヲ感化シ薰陶スルコトカ緊要テアル
之レ實ニ教育ニ從事スル者ノ大ナル責任テ又甚タ困難ナル事柄テア

第六章 教育ニ關スル諸注意

第一、將校並ニ下士、上等兵ノ言語ニ就テ

將校ヲ始メ下士、上等兵ノ言語ハ極メテ平易ナノカ必要テアル故ニ學科ノ教授ニ於テハ勿論例令術科ニ於ケル講評、説明、注意等凡テ平易ニ言ヒ表ハシ得ルコトヲ研究スルノカ緊要テアル然シ之レ等ノ言語ハ命令詞ヲ用ユルトキト判然區別スルコトニ注意セネハナラヌ彼ノ修業兵ノ上等兵トナリシ始メ其ノ演習ニ於テ兵卒ヲ矯正スル際其ノ命令詞ナルヤ注意ナルヤ又相談シ居ルモノナルヤ判然セサル者アリ、之レ等ハ何人ニ依ラス其威嚴ヲ保ツ上ニ就テ甚々不見識ノコ

トナルヲ以テ深ク注意ヲセネハナラヌ

第二、將校並ニ下士上等兵ノ態度ニ就テ

將校並ニ下士上等兵ハ常ニ教官、助教、助手トシテ直接之レカ教育ニ従事スルモノ故躬行率先以テ部下ニ好模範ヲ示シテ之レヲ指導セネハナラヌ殊ニ行軍、野外演習其他劇烈ナル動作ノ後ニ於テ特ニ注意シ愉快ニ迅速且確實ニ動作シテ部下ヲシテ不知不知ノ間ニ信賴スルコトクニセネハナラヌ

第三、下士、上等兵ノ統御法ニ就テ

下士、上等兵ノ統御其ノ宜シキヲ得ルト否トハ教育ノ結果ニ大ナル影響ヲ及ホスモノテアル之カ爲メ必要ナル手段ハ
一、下士、上等兵ノ位置ヲ高尚ニシ兵卒ノ上ニ立チテ能ク其威嚴ヲ

保チ得ル如クニ愛護スルコト

二、下士、上等兵ヲシテ誠心、誠意、熱心、ニ教育ニ従事スル如クニ指導スルコト

三、下士、上等兵ヲシテ教育ノ方法手段ニ就テ競争心ヲ起サシムルコト

四、下士、上等兵ヲシテ常ニ其ノ志氣ヲ旺盛ナラシムルコト
等テアル而シテ特ニ緊要ナル事ハ凡テメ演習ニ於テ教官タルモノハ其ノ助教助手タルヘキ下士、上等兵ヲ使用スル上ニ就テハ全ク之レヲ手裏ニ掌握シテ例令僅少ノ事ナリトモ已レノ意圖外ニ脱セシメナイニトテアル例ヘハ各個教練ノ演習ニ於テ其ノ實施ニ當リ自己ノ要求セル場所、隊形、課目及實施ノ方法手段並ニ着眼點等ニ於テ其ノ

意圖ニ合セサル所アレハ直ニ説明シ注意シ或ハ矯正シテ實行セシムルコトテアル

第四、兵卒ノ統御法ニ就テ

新兵ト古兵トノ關係ハ勿論、各兵卒間ノ關係上不良ナル點ノ有ルトキハ練兵場ニ於テ如何ニ注意シテ教育ヲ行フトモ其ノ効果ハ現ハレナイノミテナク返リテ害ノアルモノテアル然ルニ之レニ反シテ若シ其ノ關係カ良好ナルトキニハ内外ノ教育相俟テ其ノ効果ハ實ニ著シイモノテアル故ニ將校ハ勿論下士タルモノハ能ク班内ニ於ケル兵卒ノ状態ヲ察シ諸種ノ手段ヲ盡シ古兵ハ新兵ヲ弟トシテ愛シ新兵ハ古兵ヲ兄トシテ敬ヒ一致團結シテ中隊ハ恰モ一ツノ家庭ノ如クシ以テ中隊ノ協同一致ヲ計ラネハナラヌ

第五、下士、上等兵ノ準備教育ニ就テ

新兵ノ教育開始前ニ於テ助教助手ノ準備教育ヲ行フカ如ク古兵掛タル他ノ下士、上等兵モ亦一通リハ此ノ教育ヲ實施スルノ必要カアル此ノ教育ニ於テ最モ必要トスル點ハ教官ヲ始メ下士、上等兵ノ所謂目ヲ一致セシムルコトテアル例ヘハ不動ノ姿勢ノ動作ハ操典ニ於テ明カニ示サレテアレトモ其ノ足ノ開キ方、上體ノ傾キノ程度、着眼點等各々其ノ見ル所ニ於テ異ナル點ナキニ非ス斯カル場合ニ於テ其儘教育ヲ實施スルトキハ極端ニ云ヘハ助手タル上等兵ノ修正シタル後ヘ助教タル下士ノ至リテ又之レヲ己レノ欲スル如クニ修正シ教官タル將校又同様ナル動作ヲ爲ストキハ一ツノ動作ヲ修正スル上ニ就テ三倍以上ノ時間ヲ費スノミテナク兵卒ハ如何ナル程度カ宜

キヤ彷彿ヒ始メ教育ノ進歩ヲ甚タシク妨害スルモノテアル故ニ此ノ教育ニ於テ將校タルモノハ各種ノ動作ニ就テ下士、上等兵ニ其ノ意圖ヲ示シテ其ノ修正ノ程度要領ヲ修得サセ一ツノ課目ヲ修正スル上ニ就テハ將校タルト下士タルト上等兵タルトヲ問ハス凡テ同一ニナシ得ル如ク即チ前述ノ目ヲ一致セシムルコトヲ計リ以テ彼等ヲシテ常に安心シテ躬行實踐以テ部下ニ良キ模範ヲ示シツ、教育ニ從事シ得ル如クニ指導セネハナラス

第六、演習場ニ就テ

演習場ハ成ルヘク他ノ煩累ナク靜肅テ中隊丈ケ獨立シテ行フコトノ出來且溫暖ナル地點カ良イノテアル而シテ其ノ面積ノ如キハ監視ノ如何ニ係ラス狭キヨリハ廣キ方カ教育上有利テアル

第七、各個教練ノ隊形ニ就テ

各個教練ノ隊形ハ次ノ要旨ニ適合セネハナラヌ

- 一、教育上及兵卒ノ目習上ニ便利テアルコト
 - 二、練兵ヲ整正確實ニシテ且靜肅ニ行ヒ得ルコト
 - 三、監視及見學スルニ便利ナルコト
 - 四、天候及ヒ太陽等ニ對シテ良好ナルコト
- 而シテ片手間隔ノ一列横隊ハ最モ此ノ要旨ニ適合スルモノ故其ノ時ノ地形ニ依リ多クハ
- 一、片手間隔一列横隊ノ方形
 - 二、片手間隔一列横隊ノ一線
 - 三、片手間隔一列横ノ區隊縱隊

等ヲ用ユルノカ良イ此ノ外時ニ速歩及駈歩ノ教育ニ於テ一列ノ側面縱隊ヲ用ユルコトカアル然シ此ノ隊形ハ兵卒ノ自習、見學等ニ不便テアル故己ムヲ得サル場合ノ外ハ採用セヌノカ良イノテアル

第八、課目ノ變換ニ就テ

兵卒ヲ教育シテ熟達セシムルニハ演習ノ經過ヲ急カスシテ能ク復習ヲスルニ依ルノテアル然シ常ニ同様ナ課目ノミヲ教ユル時ハ兵卒ニ倦厭ノ念ヲ生スルモノテ又其ノ變換ノ時期早キニ失スルトキハ熟練スルノ暇カナイ害カアル故ニ教官タル者ハ其ノ時ノ目的ニ應シテ適宜ニ課目ノ變換ヲ行フコトニ注意スルノカ緊要テアル但シ或ル目的例令ハ近來古兵ノ速歩行進ノ動作甚タ亂レタル如ク感シ充分之レヲ矯正セントスルカ如キ場合ニ於テハ初メヨリ終リ迄其ノ課目ヲ實施

スルコトニ躊躇シテハナラヌ

第九、隊形ノ變換ニ就テ

隊形ノ變換ハ屢々之レヲ行フトキハ必要ナル課目ノ時間ヲ減少スルノ虞レアレトモ其ノ時ノ地形、天候其ノ他兵卒ノ科目ヲ自習スルモノノ少ナクナリタルトキ若クハ下士、上等兵ノ其ノ教育ニ稍々厭キヲ生シタコトヲ感シタル時ノ如キハ適宜ニ實施スルコトカ緊要テアル之レカ爲メ却リテ其ノ教育ニ大ナル活氣ヲ呈スルニ至ルモノテアル

第十、課目ノ命シ方ニ就テ

課目ヲ命セントスルトキハ先ツ其ノ命セントスル事柄ニ就テ思考シテ後一般ニ助教、助手タル下士、上等兵ヲ集メテ簡單明瞭ニ其ノ課目

要スレハ着眼點並ニ矯正スヘキ諸點ヲ指示スルノカ良イ然シ斯ノ如クスルトキニハ時間ヲ空費スルノ害アル故ニ單簡ナ事ヲ示スニハ助教ノミヲ集メタリ又ハ單ニ大聲ヲ發シテ一般ニ告示スレハ良イノテアル而シテ課目ヲ一度ニ多ク命スルカ如キハ良イコトテハナイノテアル

第七章 結論

第一、以上述ヘル所ノモノハ單ニ自己ノ古兵ノ教育上ニ就テ感セシ事項ヲ記述シタモノニシテ順序ノ整ハサルハ勿論其ノ實施ノ要領ニ至リテハ殊ニ教育上ニ就テハ日進月歩ノ今日ニ於テ實施者ト其ノ趣ヲ異ニスル點ハ少ナガラサルヘシ然レトモ之レヲ要スルニ教官タル將

校ハ教育ニ望ミテハ充分綿密ナル計畫ヲ立テ下士上等兵ハ勿論兵卒
ヲシテ僅少ノ事タリトモ自己ノ意圖外ノ動作ヲナサシメス常ニ之レ
ヲ掌握シ下士、上等兵ハ能ク將校ノ意圖ニ從ヒ躬行實踐好模範ヲ示
シテ兵卒ニ望ミ以テ常ニ兵卒ヲシテ愉快ニ其ノ全幅ノ心力ヲ以テ熱
心ニ教訓ヲ迎エシムル如クニ指導スルニアルモノト信スルノテアル

古兵教育之要領終

明治四十三年五月廿五日 印刷
明治四十三年五月廿九日 發行

古兵教育之要領附
正價金貳拾五錢

東京市牛込區若松町百五十番地

著作兼
發行者

上 田 賴 三

東京市芝區櫻川町十七番地

印刷者

山 田 三 次 郎

東京市芝區櫻川町十七番地

印刷所

山 田 活 版 所

複 製
不 許

東京市牛込區若松町百五十番地(陸軍戸山學校前通り)

發行所 軍需商會出版部

電話番町一四七一番
發電略號(グ) 振替貯金口座東京五四一六番

| | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|----|----|
| 步兵 | 步兵 | 體操 | 陸軍 | 精神 | 精神 | 軍人 | 軍人 | 下士 | 卒用 |
| 工 | 機關 | 劍術 | 禮式 | 教育 | 教育 | 精神 | 精神 | 精神 | 精神 |
| 作 | 銃 | 問 | 問 | 問 | 問 | 修 | 修 | 訓 | 訓 |
| 問 | 問 | 答 | 答 | 答 | 答 | 養 | 養 | 戒 | 戒 |
| 答 | 答 | 答 | 答 | 答 | 答 | 訓 | 訓 | 集 | 集 |
| 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 上卷一冊 | 下卷一冊 | | | | |
| 金拾錢 | 金拾錢 | 金拾錢 | 金拾錢 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 郵稅貳錢 | 同 | 同 | 同 | 貳拾錢 | 貳拾錢 | 貳拾錢 | 貳拾錢 | 同 | 同 |

| | | | | | | | | | |
|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 步兵 | 步兵 | 體操 | 陸軍 | 陸軍 | 陸軍 | 陸軍 | 陸軍 | 陸軍 | 陸軍 |
| 通信 | 內務 | 劍術 | 禮式 | 禮式 | 禮式 | 禮式 | 禮式 | 禮式 | 禮式 |
| 手 | 一覽 | 教育 | 問 | 問 | 問 | 問 | 問 | 問 | 問 |
| 簿 | 表 | 要領 | 集 | 集 | 集 | 集 | 集 | 集 | 集 |
| 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 |
| 金拾參錢 | 金五錢 | 金貳拾錢 | 金貳拾錢 | 金貳拾錢 | 金貳拾錢 | 金貳拾錢 | 金貳拾錢 | 金貳拾錢 | 金貳拾錢 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |

陸軍大學校 明治四十一年度分 入學試驗 數學問題答解 全一冊 金貳拾五錢 同貳錢

機關銃之戰術的用法 全一冊 金四拾錢 郵稅四錢
 步兵機關銃教育方案 全一冊 金參拾錢 同 四錢
 機關銃射擊指揮及取扱法問答 全一冊 金貳拾錢 同 貳錢
 露軍ニ於ケル機關砲ノ使用 全一冊 金拾五錢 同 貳錢
 步兵之射擊指揮 全一冊 金參拾錢 同 四錢
 實際的步兵射擊學 全一冊 金五拾錢 同 四錢
 戰鬪射擊擬習及實習 附錄共 二冊 金貳拾五錢 同 貳錢
附錄。戰鬪射擊用計算簿
 步兵夜間動作ノ教育 全一冊 金拾五錢 同 貳錢
 夜間戰鬪 全一冊 金貳拾五錢 同 貳錢

改訂應用帥兵術 全一冊 金七拾錢 郵稅八錢
 第三版
 戰術問題解決ノ要旨 全一冊 金拾五錢 同 貳錢
 斥候長 全一冊 金參拾五錢 同 四錢
 戰術之栞一名勝敗之友 全一冊 金貳拾五錢 同 四錢
 戰術彙抄 全一冊 金貳拾五錢 同 四錢
 部隊戰鬪 全四冊 壹部
 第一卷 步兵中隊戰鬪 金四拾錢 同 四錢
 第二卷 大隊戰鬪 金四拾錢 同 四錢
 第三卷 聯隊戰鬪
 第四卷 旅團戰鬪

日露戰勝敗ニ關スル觀察 全一冊 金五拾錢 郵稅四錢

用兵問答 全三冊 金九拾錢 同 八錢

兵學研究資料 全三冊 金七拾五錢 同 八錢

統帥例 全一冊 金參拾五錢 同 四錢

明治四十一年改訂野外要務私解 全四冊 金壹圓四拾錢同拾貳錢

○第一卷 金四拾錢

○第二卷 金四拾錢

○第三卷 金參拾錢

○第四卷 金參拾錢

步兵戰術講義錄 全十二冊 金貳拾五錢宛郵稅四錢宛

住民地及森林之戰鬪 全二冊 金四拾錢宛郵稅四錢宛

步兵操典衍義 全一冊 金四拾錢 郵稅八錢

步兵斥候教育問答 全一冊 金貳拾錢 郵稅貳錢

步兵傳令使教育問答 全一冊 金貳拾錢 郵稅貳錢

步兵連絡兵教育問答 全一冊 金貳拾錢 郵稅貳錢

交通學問答 全一冊 金貳拾錢 郵稅貳錢

古兵教育之要領 全一冊 金貳拾五錢 郵稅貳錢

兵語之解 全一冊 金拾五錢 郵稅貳錢

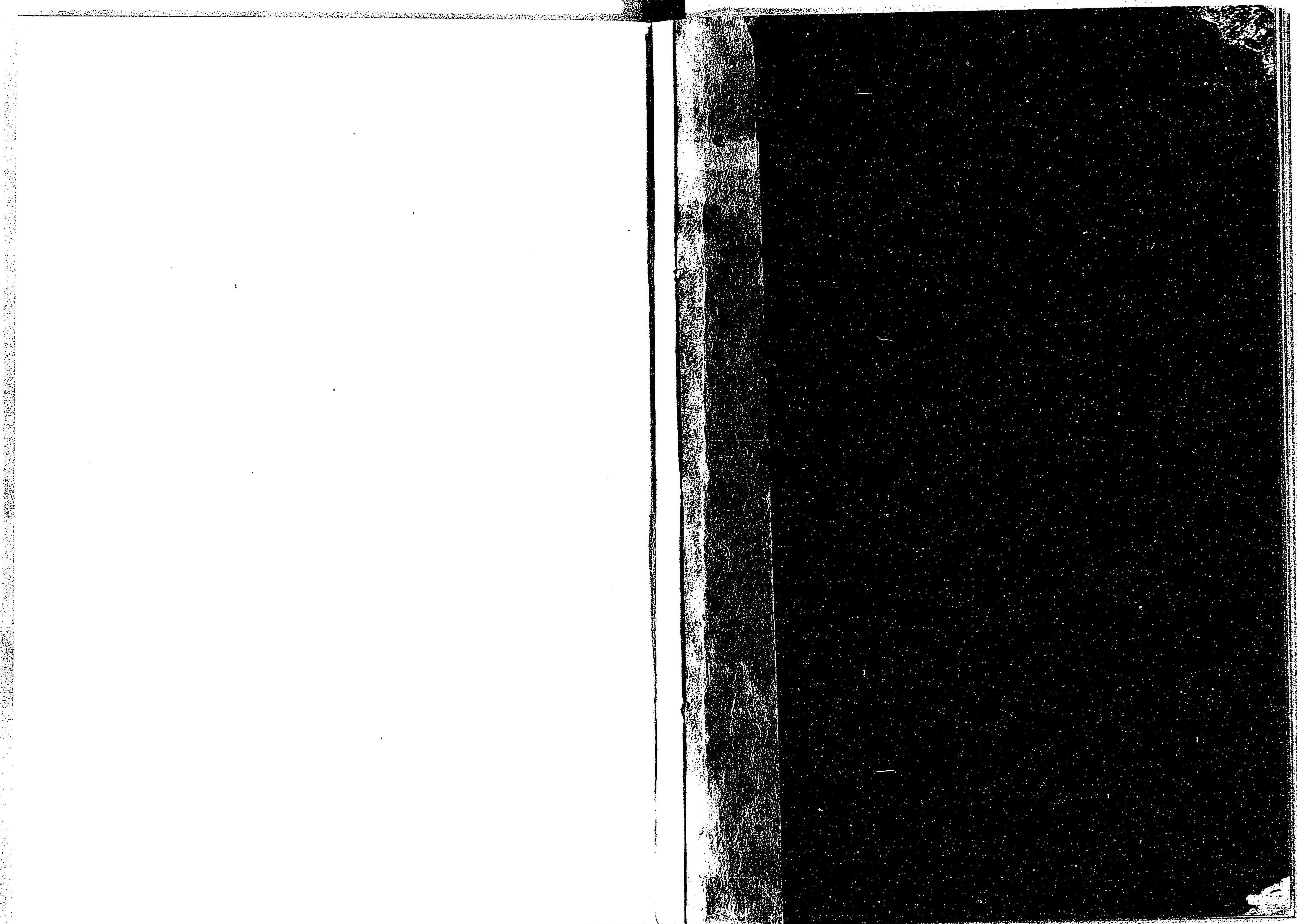
國民通俗軍隊學便覽 全一冊 金貳拾五錢 郵稅貳錢

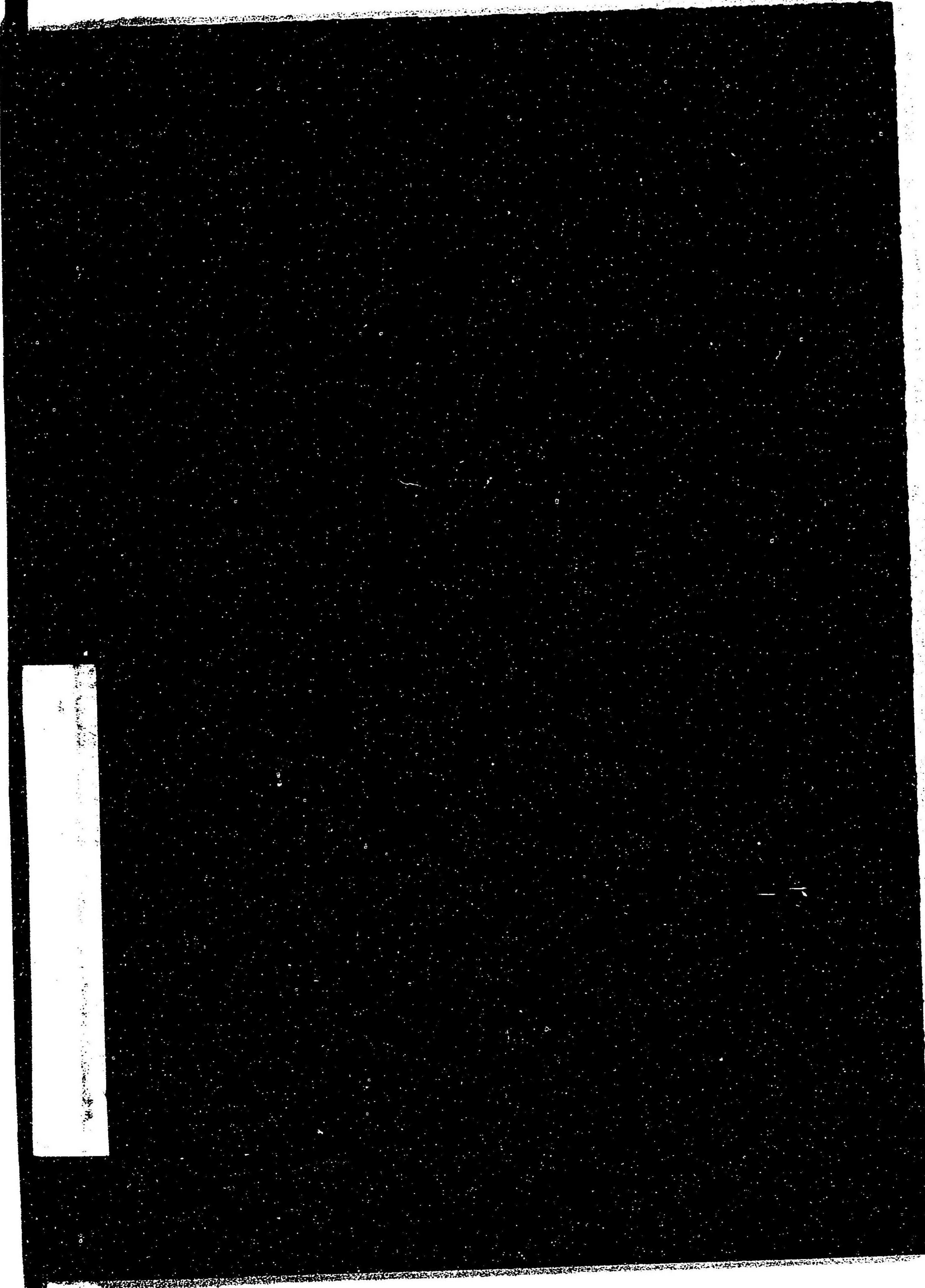
必携軍隊內務の躰 全一冊 金貳拾錢 郵稅貳錢

步兵中隊下士教育方案 全一冊 金貳拾錢 郵稅貳錢

附豫進度表

下等兵學科教程 全一冊 金五拾錢 郵稅八錢





Vertical text or markings on the left edge of the black area, possibly a page number or a label. The text is very faint and difficult to read, but it seems to be oriented vertically.

297

30

古兵教育之要領

国立国会図書館

051452-000-6

297-30

古兵教育之要領

軍需商会

M43

BFB-0176

